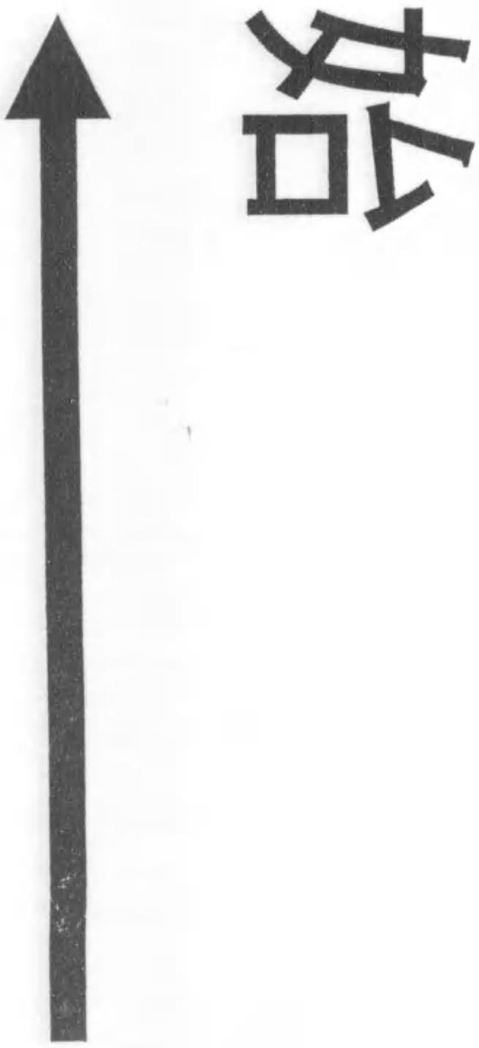
320
166



コ2556の
320-166

新編樂典教科書

天谷秀著

東京 修文館

著者寄贈本
大正 4. 1. 27 寄贈

新編 樂典教科書

凡例

一本書は師範學校、高等女學校教科用に充てんが爲め、文部省訓令師範學校、高等女學校音樂科教授要目に準據して編纂したるものなり。

一本書は之を樂譜論、音程論、音階論、和聲論の四編に分ち、各學年の唱歌程度に從ひて、最も簡易明瞭に說述したるものなり。

一本書に用ふる用語及術語は、最も普通に行はるゝものを襲用し、例題には特に意を用ひ祝祭日唱歌、文部省編尋常小學唱歌三、四、五六學年用及び各國の國歌其他著名なる

樂曲中より之を引用したり。

一本書を師範學校又は高等女學校に課するには、文部省訓令に準じ、左の如く分配して教授するを便宜なりとす。

第一學年　第一編樂譜論より第十二章省略記號又は第一編の終りに至る。

第二學年　第一編第十三章若くば第二編音程論より第三編音階論、變種長音階構成法に至る。

第三學年　第三編音階論第二節短音階より第三編の終りに至る。

第四學年　第四編和聲論より第四編の終りに至る。

尙ほ各學校の音樂程度に從ひ、多少の變更を要す。

一本書は溫習上必要なる練習課題及び音樂に關する術語集を附錄としたり。

大正三年十二月

著者誌

新編樂典教科書目次

總論……一

第一編　樂譜論……二

第一章　譜表……二

第一節　譜表の位置……二

第二節　加線……二

第二章　音名……三

第一節　各國の音名……三

第二節　階名……五

第三章　音部記號……五

第一節　高音部記號……六

第二節　低音部記號……六

第三節　大譜表……八
第四節　大譜表と音名……七
第四章　音符……八
第一節　單純音符……八
第二節　附點音符……九
第三節　複附點音符……一〇
第五章　休止符……一一
第一節　單純休止符……一一
第二節　附點休止符……一二
第三節　複附點休止符……一三
第六章　縱線……一五
第一節　單縱線……一五
第二節　複縱線……一五

第七章　拍子……一七
第一節　拍子記號……一八
第二節　拍子の種類……一九
第三節　强起及弱起……二一
第四節　拍子の採り方……二一
第五節　變拍子(三連音符)……二四
第六節　切分音……二四
第八章　嬰變及本位記號……二五
第一節　形狀及作用……二五
第二節　臨時記號としての場合……二六
第三節　調子記號としての場合……二七
第九章　速度標語……二八
第一節　速度標語の種類……二九

第二節　拍節機(メトロノーム)……三〇
第十章　發想記號……三一
第一節　强弱に關する發想記號……三一
第二節　曲想に關する發想記號……三五
第十一章　雜記號……三五
第一節　連結記號……三六
第二節　スタカトー……三六
第三節　延長記號……三七
第十二章　省略記號……三八
第一節　省略記號の種類……三八
第二節　省略記號の用法……三九
第十三章　音符略記法……四〇
第十四章　裝飾記號……四二

其一　倚音……四三
其二　回音……四四
其三　顫音……四四
其四　漣音……四四
其五　琶音……四五
第二編　音程論……四六
第一章　音程……四八
第一節　全音階的音程……四七
第二節　半音階的音程……四八
第三節　音程の轉回……五〇
第三編　音階論……五一
第一章　音階……五一
第一節　長音階……五二

其一　嬰種長音階構成法……五三
其二　變種長音階構成法……五六
第二節　短音階……五八
其一　基本短音階……五九
其二　和聲的短音階……六〇
其三　旋律的短音階……六一
其四　短音階構成法……六一
第三節　半音階……六三
第四節　雅樂調音階……六四
其一　律旋法……六五
其二　呂旋法……六六
第五節　俗樂調音階……六六
其一　陰旋法……六七
其二　陽旋法……六九

第六節　各旋法の性質及識別法……六九
第二章　移調……七〇
第三章　轉調……七一
第四編　和聲論……七三
第一章　和聲學……七三
第一節　人聲の區域……七三
第二節　協和音程及不協和音程……七四
第二章　三和音……七六
第一節　三和音の種類……七六
第二節　七音の名稱……七七
第三章　四聲音部……七八
第四章　轉回和絃……七九

第五章　和音の進行法……八〇
第六章　七の和絃……八二
第七章　靜止法……八四
附錄
練習課題
音樂術語集

新編 **樂典教科書目次** 終

新編 樂典教科書

天谷　秀著

總論

音樂　音樂とは樂音の高低、長短、强弱等を適宜に配合して之を調和連結せしめ、吾人の感情を表はせるものとす。而して音樂に要する諸種の事項を表示する諸記號及樂理を記述せるものを樂典と云ふ。

樂典　樂典を論ずるには、音樂を表はすに必要なる諸記號に關する樂譜論、諸種の音程及音階に關する音程并に音階論、和聲に關する和聲論の四編に大別して說くを便宜なりとす。

第一編　樂譜論

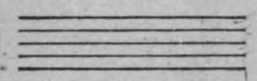
第一章　譜表

音樂に用ふる高低の諸音を記載するには、五條の平行線を以てす、之を**譜表**と云ひ樂譜の基礎となるものなり。

第一節　譜表の位置

譜表は其線上及線間に聲音を記載するものにして、下より上に第一線より第五線、第一の間より第四の間に至るものとす。而して線上及線間を**一度**と云ふ、故に譜表には九度の位置を有するものなり。（第一圖）

（第一圖）



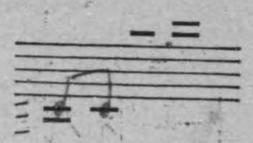
第二節　加線

音名「イロハニホヘト」

譜表外の上若くば下に高低音を記載する場合には、短線を增設して表はすことあり、之を**加線**と云ふ。

加線は譜表を中心として位置の名稱を附すること第二圖の如し。

（第二圖）



第二章　音名

譜表の各位置に附したる名稱を**音名**と云ふ。

音名は譜表の各位置に固定したる名稱なれば、一定不動なりとす。

第一節　各國の音名

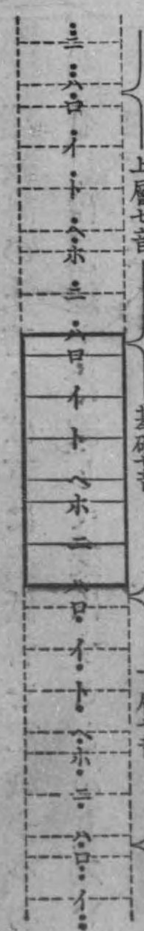
吾國は「イロハ」の首句七文字を以て音名とし、英米及獨逸にありては「アルハベット」の首句七文字を以てす、左の如し。

〔附說〕音名記法には無點のものを基礎七音とするものとし、上部に一點を附加したるものを基礎七音とするものと、二說あれども、本書は從來の習慣上、前者に從ひたり。

H イ	B ゲ	ロ
A ア	A エ	イ
G ゲ	G ジ	ト
F ラ	F エラ	ヘ
E ニ	E イ	ホ
D ア	D ア	ニ
C ワニー	C シ	ハ
（獨逸）	（英、米）	（日本）

此の七音を基礎七音と云ひ、音樂上に用ふる數多の聲音は、之を反復重用せるものとす。されど各音の間隔は、廣狹の差ありて相等しからざること第三圖の如し。基礎七音より高きものには、其音名の上部に一點若くば二點三點を附加し、低きものには下部に一點若くば二點三點を附して之を區別す。而して基礎七音より高きものを上層七音、最上層七音と云ひ、低き

（第三圖）



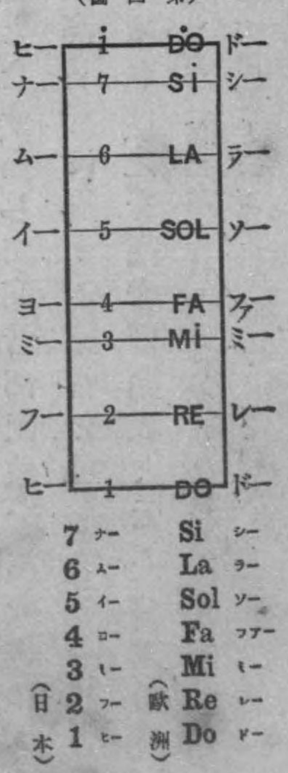
を下層七音、最下層七音と云ふ。（第三圖）

第二節　階名

音樂には音名の外、唱歌練習上、各音階に附したる名稱あり、之を階名と云ふ。

階名には歐洲呼稱法と、吾國の呼稱法とあり、第四圖の如し。

（第四圖）



第三章　音部記號

音樂に用ふる高低音の諸音を記載するに適當なる部屬を定むる爲めに用ふる記號を、音部記號と云ふ。

音部記號には左の二種あり。

一高音部記號 𝄞

二低音部記號 𝄢

第一節　高音部記號

高音部記號は、其主要部を譜表の第二線上に置き、此譜表の標準線となす、而して高音部記號を置かれたる譜表は高音部に屬する諸音を記載するに用ふるものなれば、之を**高音部譜表**と云ふ。（第五圖）

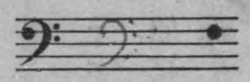
（第五圖）

高音部譜表の第二線上は**ト**音に當るを以て、高音部記號を一名**ト字記號**と云ふ。

第二節　低音部記號

低音部記號は、其主要部を譜表の第四線上に置き、此譜表の標準線となす、而して低音部記號を置かれたる譜表は、低音部に屬する諸音を記載するに用ふるものなれば、之を**低音部譜表**と云ふ。（第六圖）

（第六圖）

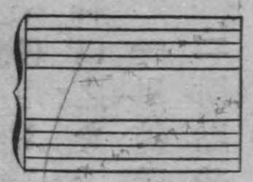


低音部譜表の第四線上は**ヘ**音に當るを以て、低音部記號を一名**ヘ字記號**と云ふ。

第三節　大譜表

二個の譜表を、縱線と括弧とを以て連結したるものを**大譜表**と云ひ、複音唱歌、ピアノ、オルガン等の樂譜を記載するに用ふ。（第七圖）

（第七圖）

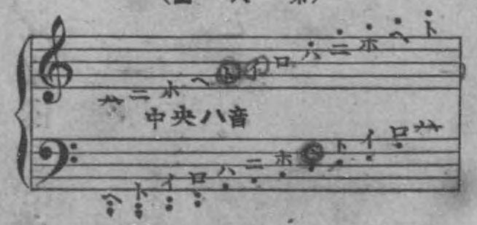


第四節　大譜表と音名

大譜表上に音名を配記すれば第八圖の如し。

而して高音部譜表と低音部譜表とは、加線を

（第八圖）



以て之を連續せしむることを得るものにして、此位置を中央ハ音と稱す。

第四章　音符

音樂に用ふる聲音の長短を表はす記號を、音符と云ふ。

音符は、之を大別して左の三種となす。

一　單純音符
二　附點音符
三　複附點音符

第一節　單純音符

單純音符には左の六種あり。其名稱及形狀、時間の割合等は左の如し。

○拍數とは、音符の時間の割合を數ふる便宜の手段にして、手を拍ちて之を表はすものとす、而して通例、四分音符一個を以て一拍とす。

單純音符				
名稱	形狀	成立	時間の割合	拍數
全音符	𝅝	白橢圓の符頭を有す	1	四拍
二分音符	𝅗𝅥	白橢圓に符尾を有す	$\frac{1}{2}$	二拍
四分音符	♩	黑橢圓に符尾を有す	$\frac{1}{4}$	一拍
八分音符	♪	黑橢圓と符尾及一鈎を有す	$\frac{1}{8}$	一拍の二分ノ一
十六分音符	𝅘𝅥𝅯	黑橢圓と符尾及二鈎を有す	$\frac{1}{16}$	一拍の四分ノ一
三十二分音符	𝅘𝅥𝅰	黑橢圓と符尾及三鈎を有す	$\frac{1}{32}$	一拍の八分ノ一

第二節　附點音符

單純音符の右方に一點を附加したるものを、附點音符と云ふ。

附點音符は、單純音符本來の時間に、其二分の一の時間を加

へたるものとす。其名稱及形狀、時價は左の如し。

附點音符					
形狀	名稱	時價			
𝅗𝅥.	附點全音符	𝅗𝅥. = 𝅝 + 𝅗𝅥			
𝅗𝅥.	附點二分音符	𝅗𝅥. = 𝅗𝅥 + 𝅘𝅥			
𝅘𝅥.	附點四分音符	𝅘𝅥. = 𝅘𝅥 + 𝅘𝅥𝅮			
𝅘𝅥𝅮.	附點八分音符	𝅘𝅥𝅮. = 𝅘𝅥𝅮 + 𝅘𝅥𝅯			
𝅘𝅥𝅯.	附點十六分音符	𝅘𝅥𝅯. = 𝅘𝅥𝅯 + 𝅘𝅥𝅰			

第三節　複附點音符

單純音符の右方に二點を附加したるものを、複附點音符と云ふ。

複附點音符は、單純音符本來の時間に、其四分の三の時間を加へたるものとす。其名稱及形狀、時價は左の如し。

複附點音符				
形狀	名稱	時價		
𝅝..	複附點全音符	𝅝.. = 𝅝 + 𝅗𝅥 + 𝅘𝅥 + 𝅘𝅥𝅮		
𝅗𝅥..	複附點二分音符	𝅗𝅥.. = 𝅗𝅥 + 𝅘𝅥 + 𝅘𝅥𝅮 + 𝅘𝅥𝅯		
𝅘𝅥..	複附點四分音符	𝅘𝅥.. = 𝅘𝅥 + 𝅘𝅥𝅮 + 𝅘𝅥𝅯		
𝅘𝅥𝅮..	複附點八分音符	𝅘𝅥𝅮.. = 𝅘𝅥𝅮 + 𝅘𝅥𝅯 + 𝅘𝅥𝅰		

第五章　休止符

樂曲の進行中に、聲音の默止を表はす記號を**休止符**と云ふ。

休止符は、之を大別して左の三種となす。

一　單純休止符

二　附點休止符

三　複附點休止符

第一節　單純休止符

單純休止符には六種あり。其名稱、形狀及默止時間の割合は左の如し。

單純休止符				
名稱	形狀	位置	時間の割合	拍數
全休止符			1	四拍
二分休止符			$\frac{1}{2}$	二拍
四分休止符			$\frac{1}{4}$	一拍
八分休止符			$\frac{1}{8}$	一拍の二分ノ一
十六分休止符			$\frac{1}{16}$	一拍の四分ノ一
三十二分休止符			$\frac{1}{32}$	一拍の八分ノ一

第二節　附點休止符

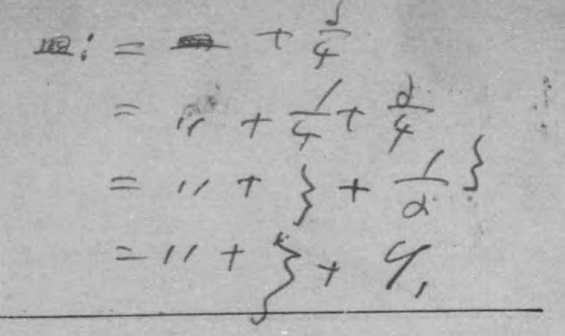
單純休止符の右方に、一點を附加したるものを**附點休止符**と云ふ。

附點休止符の默止時間は、單純休止符本來の時間に其二分の一の默止時間を加へたるものと同一なりとす。左の如し

附點休止符		
名稱	形狀	時價
附點全休止符		
附點二分休止符		
附點四分休止符		
附點八分休止符		
附點十六分休止符		

第三節　複附點休止符

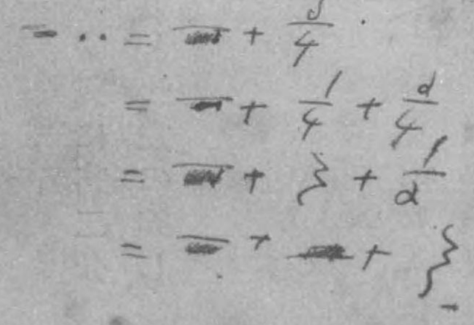
單純休止符の右方に、二點を附加したるものを**複附點休止**



符と云ふ。

複附點休止符の默止時間は、單純休止符本來の時間に、其四分の三の默止時間を加へたるものと同一なりとす。左の如し

複附點休止符			
形狀	名稱	時價	
	複附點全休止符		
	複附點二分休止符		
	複附點四分休止符		
	複附點八分休止符		



縱線

單縱線

複縱線

第六章　縱　線

樂曲を縱に貫通せる直線を縱線と云ふ。

縱線には左の二種あり。

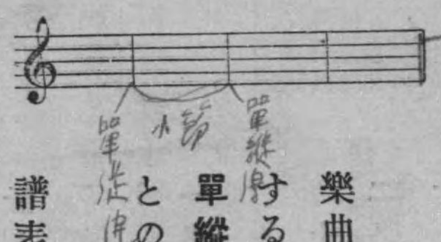
一　單縱線

二　複縱線

第一節　單縱線

樂曲を等一なる時價を有する小部分に區分する爲め、譜表を縱に貫通せる一條の直線を單縱線と云ふ。(第九圖)而して單縱線と單縱線との間を小節と云ふ。

(第九圖)



第二節　複縱線

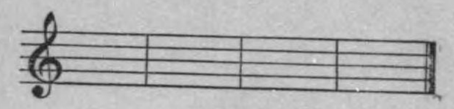
譜表を縱に貫通せる二條の直線を複縱線と

云ふ。

複縦線には終結複縦線、區劃複縦線の二種あり。

一、終結複縦線は、專ら樂曲の終結を示すに用ひ、一線は細く一線は太く記するを通例とす。（第十圖）

（第十圖）



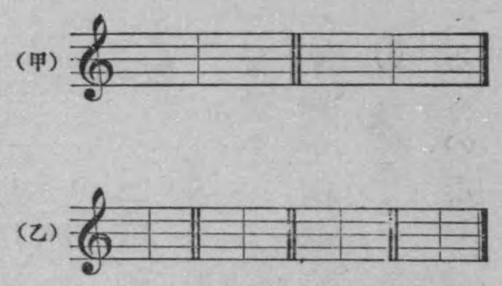
二、區劃複縦線は、樂曲の中間に置きて、一樂曲を分割する場合に用ふること多し。（第十一圖）

(甲)一樂曲を二部に分割したる例。

(乙)一樂曲を四部に分割したる例。

(一)區劃複縦線は、一樂曲を分割する外、樂曲の中途に於て、調子記號又は拍子記號を變更する場合にも用ふることあり。

（第十一圖）



(二)區劃複縦線は、二線とも同一の太さなるを通例とす。

第七章　拍子

樂曲には、一定の時間内に表はるゝ强聲及弱聲の規則正しき配列あり、之を拍子と云ふ。

樂曲進行中には、必ず一定の强聲及弱聲の表はるゝものな

れども、吾人が殊更に其存在を感ぜざるは、最も自然の理に基くものなればなり。

第一節　拍子記號

拍子は之を識別するに便ならしめん爲め、譜表の始め音部記號及調子記號の次に、一種の記號若くば亞刺比亞數字を重疊に記して其如何なる拍子に屬するかを表示す、之を拍子記號と云ふ。而して重疊したる亞刺比亞數字の分母は、音符の種類を表はし、分子は之に相當する一小節内に於ける音符の個數を示せるものなり。（第十二圖甲乙）

（第十二圖）

（甲）

（乙）

第二節　拍子の種類

普通用ふる拍子の種類及拍子記號、強弱聲の位置等は左の如し。

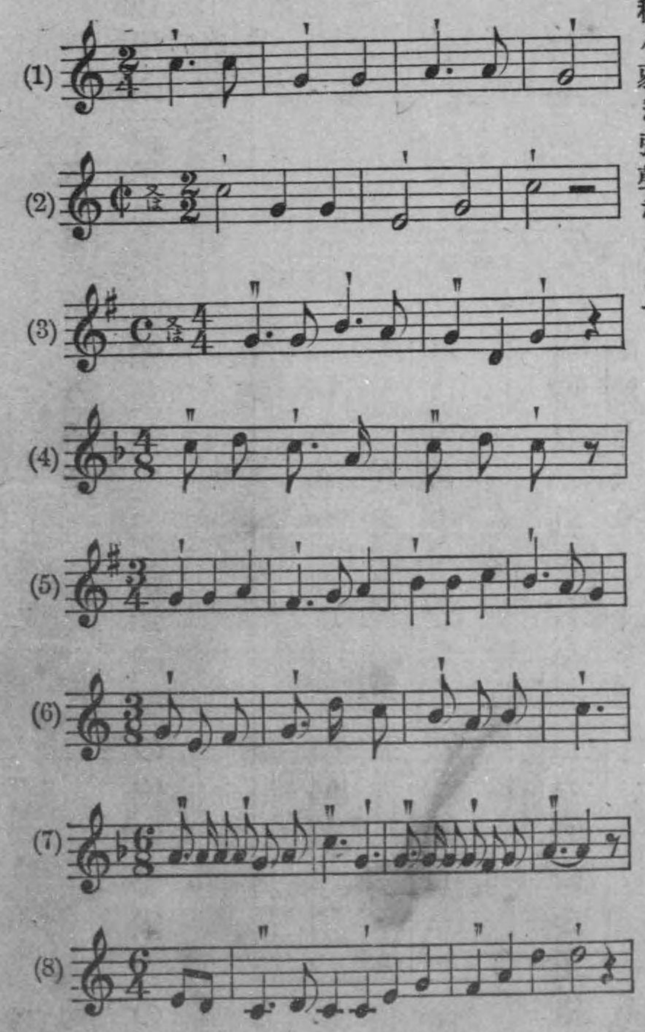
拍子の種類		拍子記號	各小節内の音符	強弱聲の位置
二拍子	四分の二拍子	2/4	四分音符二個若くば之と同格なる諸音符を有す。	第一拍強聲
	二分の二拍子	2/2 又は ¢	二分音符二個若くば之と同格なる諸音符を有す。	第二拍弱聲
四拍子	四分の四拍子	4/4 又は C	四分音符四個若くば之と同格なる諸音符を有す。	第一、三拍強聲
	八分の四拍子	4/8	八分音符四個若くば之と同格なる諸音符を有す。	第二、四拍弱聲
三拍子	四分の三拍子	3/4	四分音符三個若くば之と同格なる諸音符を有す。	第一拍強聲
	八分の三拍子	3/8	八分音符三個若くば之と同格なる諸音符を有す。	第二、三拍弱聲
六拍子	八分の六拍子	6/8	八分音符六個若くば之と同格なる諸音符を有す。	第一、四拍強聲
	四分の六拍子	6/4	四分音符六個若くば之と同格なる諸音符を有す。	第二、三、五、六拍弱聲

但し樂曲中の休止符は之を拍子に算入するものとす。

各拍子の樂曲に從ひ、强弱聲の位置を示せば左の如し。（第十三圖）

音符の上に垂點あるものは强聲にして、一個の垂點は二個のものよりも稍々弱き强聲なりとす。

（第十三圖）



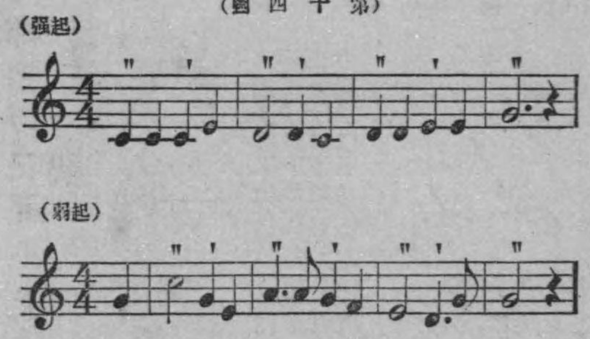
第三節　强起及弱起

樂曲は多く强聲部に始まるものなれども、樂曲の性質に依りては、弱聲部に始まるものあり。前者を**强起**と云ひ、後者を**弱起**と云ふ。而して弱起の場合は多く樂曲最終の一部を割きて其の最始に置きたるものなれば、樂譜上に於ては前後の小節を合算して一小節と見做すものにして、之を**變格小節**と云ひ、其他のものを**正格小節**と云ふ。（第十四圖）

第四節　拍子の採り方

拍子を正格ならしむる方法に**拍節法**、

（第十四圖）



呼節法の二種あり。

拍節法とは、短鞭の動作に依りて、樂曲の速度及强弱聲の所在を表示する方法にして、各拍子に從ひ其方法を異にせり、左の如し。

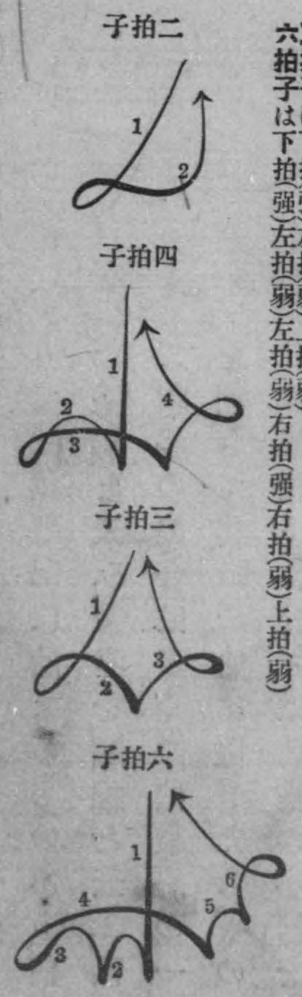
二拍子は下拍(强)上拍(弱)

四拍子は下拍(强)左拍(弱)右拍(强)上拍(弱)

三拍子は下拍(强)左拍(弱)上拍(弱)

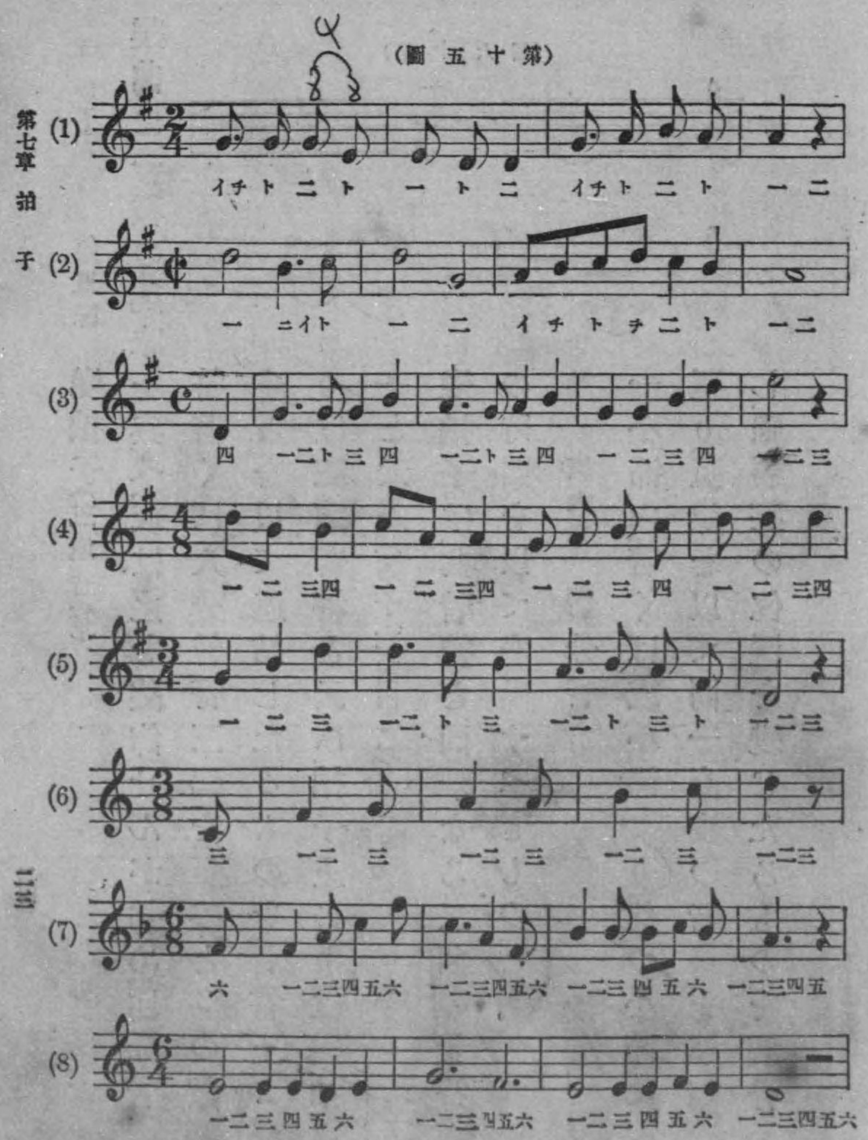
六拍子は下拍(强)左拍(弱)右拍(强)右拍(弱)上拍(弱)

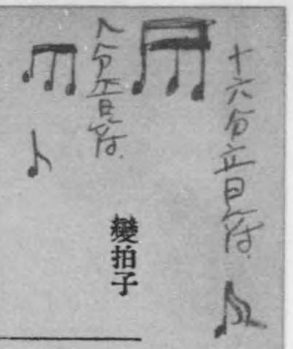
(法節拍)



呼節法とは、各拍子の拍數を呼びて、拍子を正格ならしむる方法を云ふ、左の如し。(第十五圖)

(第十五圖)

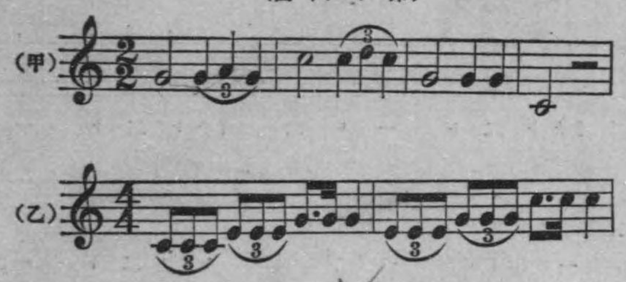




第五節　變拍子(三連音符)

樂曲に一種の趣味を與へ、或は之を裝飾せんが爲め、四分音符若くば八分音符三個を弧線と3の數字とを以て連結したるものを、音符上よりは**三連音符**と云ひ、拍子上よりは**變拍子**と云ふ。(第十六圖甲乙)

(第十六圖)



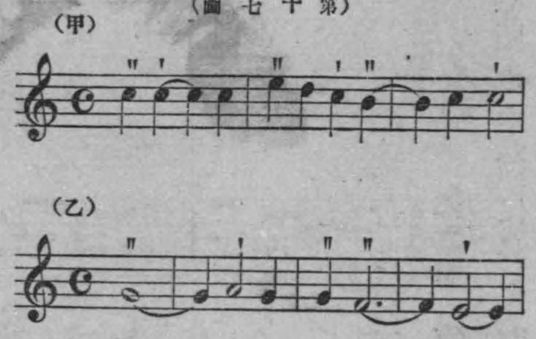
變拍子は、其音符と同一なる二個の音符の時間を以て奏唱すべきものとす。

第六節　切分音

一小節内、若くば或小節より他の小節に亘り、弧線を以て同一高度の音符を連結し、強弱聲の位置を變じたるものを**切分音**と云ひ、強聲は常に其首部に移るものとす。(第十七圖甲乙)

○切分音を多く用ふる時は、樂曲の拍子を亂雜ならしむるを以て、稀に用ふるものとす。

(第十七圖)

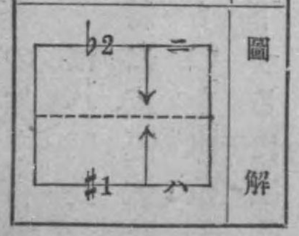


第八章　嬰、變及本位記號

ピアノ、オルガン等の如き、有鍵樂器に於ける白鍵音、若くば**ハ**調長音階に於ける諸音の如く、特に或記號を附して上下せられざるものを**本位音**と云ふ。而して或る必要上、本位音を半音程上下するには嬰、變若くば本位記號を用ふ。

第一節　形狀及作用

嬰、變及本位記號を變化記號又は遷位記號と云ふ、其形狀及作用は左の如し。

名稱	形狀	作用	圖解
嬰記號	♯	本位音を半音程上昇せしむ。	
變記號	♭	本位音を半音程下降せしむ。	
本位記號	♮	嬰又は變記號にて半音程上下したるものを本位音に復せしむ。	

○變化記號には嬰、變、本位記號の外、重嬰、重變の兩記號あれども、使用すること少なきに依り略す。

嬰及變記號を用ふるに、臨時記號としての場合と、調子記號としての場合との二樣あり。

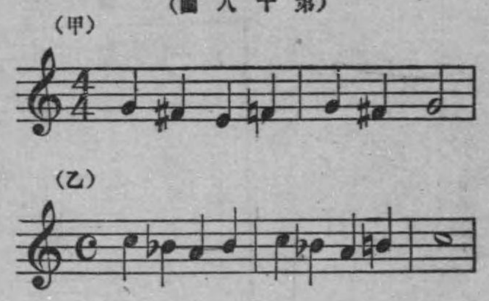
第二節　臨時記號としての場合

樂曲の中途に於て臨時、必要に應じ、音符の前に附記したる

嬰及變記號は、臨時記號として用ひたるものにして、附せられたる音符より以下、小節內の同一高度の音符に其作用を波及するものにして、他の小節に至りては其効力を失ふものとす。而して本位記號は、專ら上下せられたる諸音を本位音に復せしむるに用ふ。

（第十八圖甲乙）

（第十八圖）

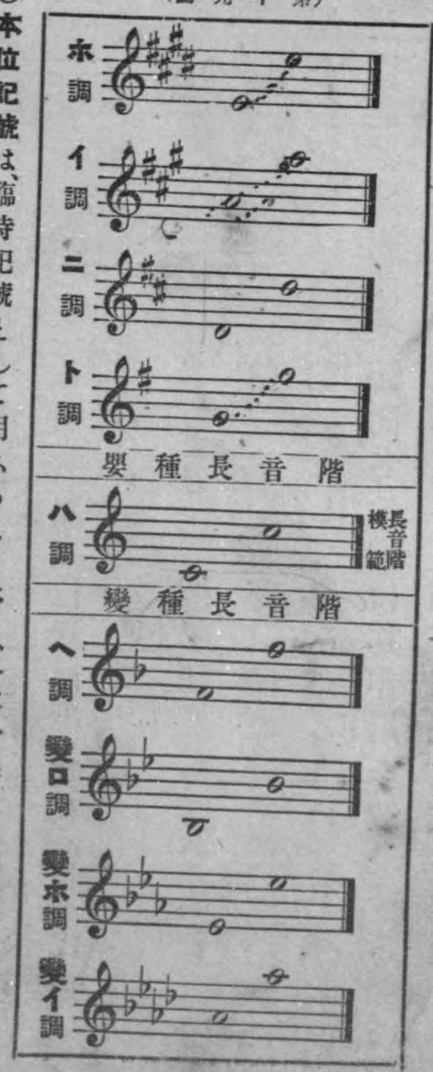


第三節　調子記號としての場合

樂曲の始め音部記號の直次に置かれたる嬰及變記號は調子記號として用ひたるものにして、其嬰及變記號は樂曲全體、同名の音に其作用を波及するものとす。而して最も多く用ひらるゝ調子記號は左の數種なり

とす。（第十九圖）

（第十九圖）



○本位記號は、臨時記號として用ふること多く、又た一樂曲中、調子を變更するに用ふることあり。

第九章　速度標語

樂曲進行の疾徐緩急の度を表示するには通例、伊太利語を以てす、之を速度標語と云ふ。

第一節　速度標語の種類

速度標語を大別して、樂曲の全部に亘るものと、一部分に關するものゝ二種となす。

一、樂曲の全部に亘るもの

〔標語〕	〔讀方〕	〔意義〕
Lento.	（レント）	極めて緩徐に
Largo.	（ラルゴ）	最も緩徐に
Larghetto.	（ラルゲット）	ラルゴより少し早く
Adagio.	（アダヂオ）	緩徐に
Andante.	（アンダンテ）	稍々緩徐に
Andantino.	（アンダンティノー）	アンダンテより少し早く
Moderato.	（モデラート）	中等の速度に

Allegro.	(アレグロ)	精々急速に
Allegretto.	(アレグレットー)	アレグロより少し遲く
Presto.	(プレスト)	急速に
Prestissimo.	(プレスチッシモ)	極めて急速に

二、樂曲の一部分に關するもの

〔標語〕	〔讀方〕	〔意義〕
Rit.	(リタールダンド)	次第に遲く
Accel.[Accelrando.]	(アッチェルランド)	次第に早く
A tempo.	(ア、テンポー)	本來の速度に(一たび他の速度に變更したるものを)
Poco.	(ポーコ)	少々(他語と共に用ふ)
Molto.	(モルトー)	甚だ(全)

第二節　拍節機(メトロノーム)

樂曲進行の速度を計る器械を、拍節機と云ふ。

拍節機の度數と、速度標語とを對照すれば左の如し。

○四分音符を四十♩＝60とあるは、一分時に於ける拍節數を示せるものなり。

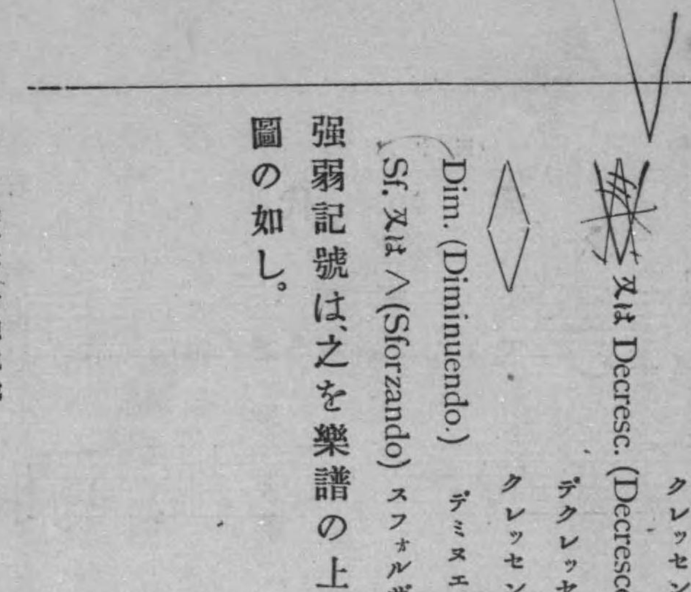
Largo. (ラルゴ)	♩＝{自40 至60}
Largetto. (ラルゲット)	♩＝{自69 至96}
Adagio. (アダヂオ) ユルヤカ	♩＝{自100 至120}
Andante. (アンダンテー)	♩＝{自126 至152}
Allegro. (レグロ)	♩＝{自160 至176}
Presto. (プレスト) presto 急速ニ	♩＝{自184 至208}

第十章　發想記號

樂曲に含有せる趣味を發輝して、其感情を一層豊富ならしめん爲めに用ふる標語及記號を總稱して發想記號と云ふ。發想記號には、强弱に關するものと、曲想に關するものゝ二種あり。左の如し

第一節　强弱に關する發想記號

〔標語又は記號〕	〔讀方〕	〔意義〕
p (Piano.)	ピアノ	弱く
pp (Pianissimo.)	ピアニッシモ	最も弱く
mp (Mezzo Piano.)	メッゾピアノ	稍々弱く
f (Forte.)	フオルテ	强く
ff (Fortissimo.)	フオルチッシモ	最も强く
mf (Mezzo Forte.)	メッゾフオルテ	稍々强く



又は Cresc. (Crescendo.) クレッセンド　次第に强く

又は Decresc. (Decrescendo.) デクレッセンド　次第に弱く

クレッセンドとデクレッセンドを併用したるもの

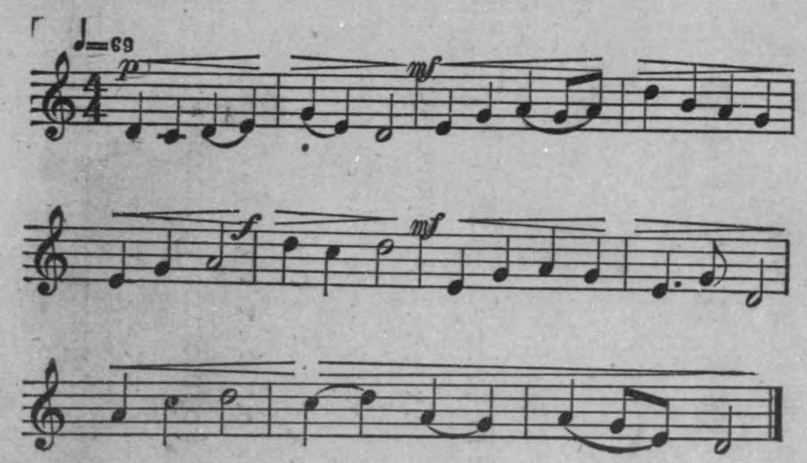
Dim. (Diminuendo.) デミヌエンド　次第に弱く

Sf. 又は ∧ (Sforzando) スフォルザンド　特に强く

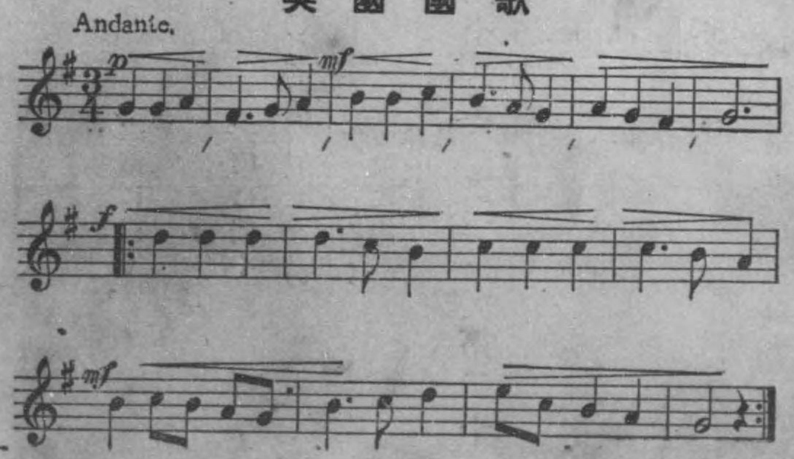
强弱記號は、之を樂譜の上部に附記するを通例とす、第二十圖の如し。

（第二十圖）

君か代



英國國歌



第二節　曲想に關する發想記號

〔標語〕	〔讀方〕	〔意義〕
Animato.	アニマート	感情深く
Con gusto.	コングスト	趣味を以て
Dolce.	ドルチエ	優美に、柔かに
Legato.	レガート	圓滑に
Con spirito	コンスピリト	熱心を以て
Scherrando.	セランド	輕快に
Doloroso.	ドロロソー	悲哀に
Vigoroso.	ヴィゴロソー	勇壯活潑に

第十一章　雜記號

各章の何れにも屬せざる諸記號を雜記號とす。其種類左の

如し

一連結記號

二スタカトー

三延長記號

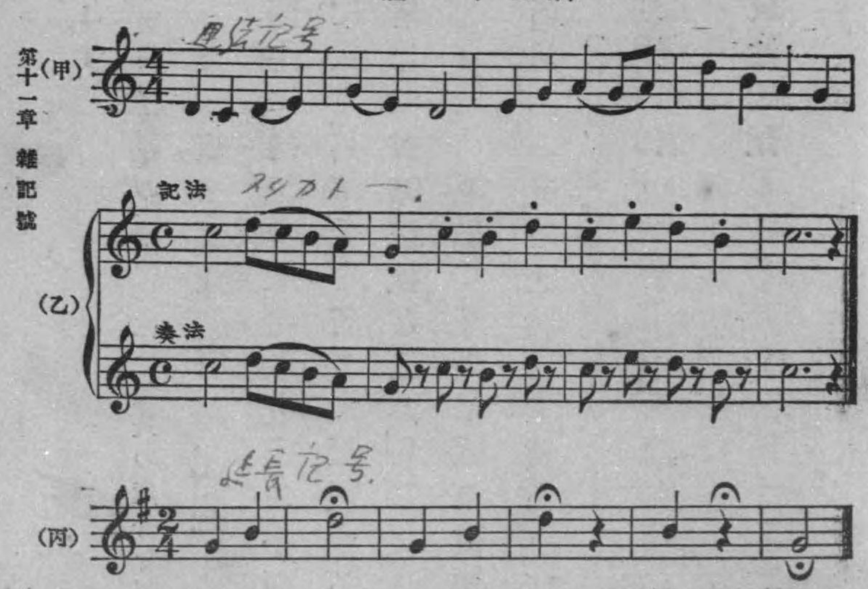
第一節　連結記號

度を異にせる二個以上の音符を、圓滑流暢に奏唱せしめんとするとき、音符の上若くば下に附記したる弧線を連結記號又はSlar（スラー）と云ふ。（第二十一圖甲）

第二節　スタカトー

樂曲中、一部分の聲音を分離鮮明に奏唱せしめんが爲め、音符の上若くば下に附記したる小點をスタカトー（Staccato）と云ふ。其記法及奏法は第二十一圖乙の如し。

（第二十一圖）



○スタカトーには、垂點のものあれども、殆んど同一の奏法なるに依り略す。

第三節　延長記號

音符若くば休止符の上若くば下に附記せる、半圓形内に一點を有するものを延長記號と云ふ。（第二十一圖丙）

延長記號を附したる音符又は休止符は、本來の時價よりも特に二倍若くば三倍延長すべきも

のとす。

○樂曲の速度の遲速に從ひ、延長の度合を異にす。

第十二章　省略記號

樂曲中に同一の樂譜より成る小節あるときは、記譜上の便宜に依り、其部分を省きて記載する爲めに用ふる諸記號を總稱して**省略記號**と云ふ。

第一節　省略記號の種類

普通用ふる省略記號に五種あり。其名稱及形狀は左の如し。

〔名稱〕	〔形狀〕	〔備考〕
反復記號	:‖	複縱線に二點を附したるもの。
反始記號	D.C	伊太利語 Da Capo（ダカーポ）の略語にして最初に反すとの意。
連續記號	𝄋	伊太利語 Al Segno（アルセーニョ）と云ひ、此の記號へ反すとの意。
終止記號	又は Fine（フィネー）.	（記號は Pause（ポース）と云ひ Fine（フィネー）と等しく終止の意。
一番括弧、二番括弧	1 2	括弧内に數字を附したるもの。

第二節　省略記號の用法

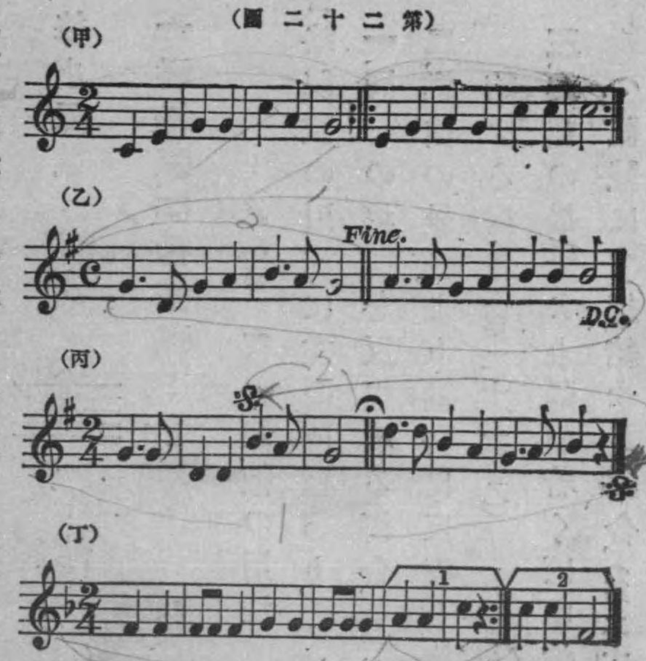
省略記號の用法に左の四種あり。

一、同一の場所を反復する場合。（第二十二圖甲）

二、樂曲の最後より最初に反復し、樂曲の中途 Fine（フィネー）にて終結する場合。（第二十二圖乙）

三、樂曲の最後より最初若くば中途に反復し、樂曲の中途（記號にて終結する場合。（第二十二圖丙）

（第二十二圖）

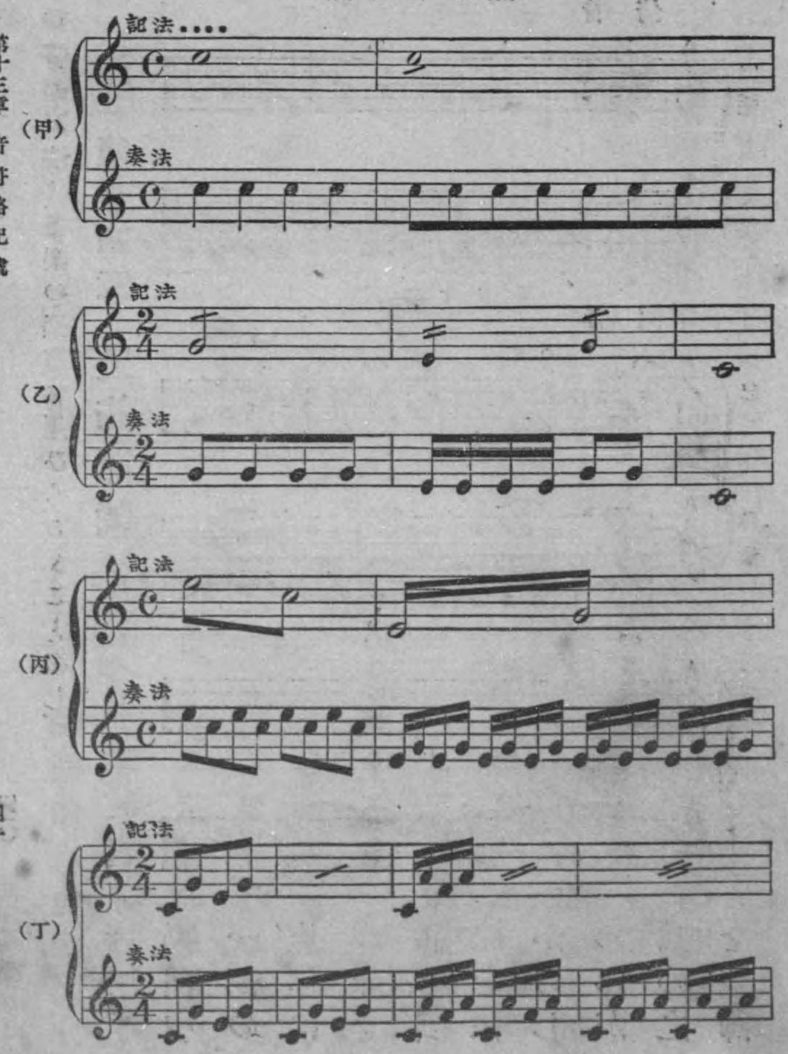


四、樂曲の他の部分は全く同一なるも、最後の小節のみ異りたる場合。（第二十二圖丁）

第十三章　音符略記法

樂曲中の一部分が、全く同一の音符より成る時は、記譜上の便宜に依り、其等の音符を略記することあり、之を音符略記法と云ふ。其記法及奏法は左の如し。（第二十三圖）

（第二十三圖）



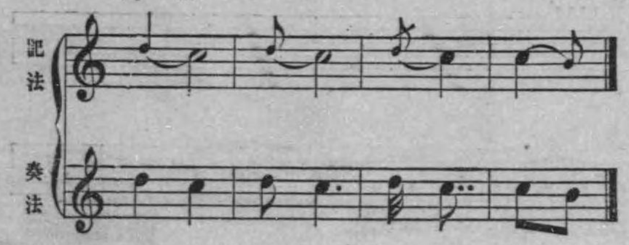
○音符略記法は、器樂の樂譜に用ひらるゝこと多し。

第十四章　裝飾記號

樂曲中一部の旋律に趣味を添へ、興味を深からしめんが爲め、之を裝飾

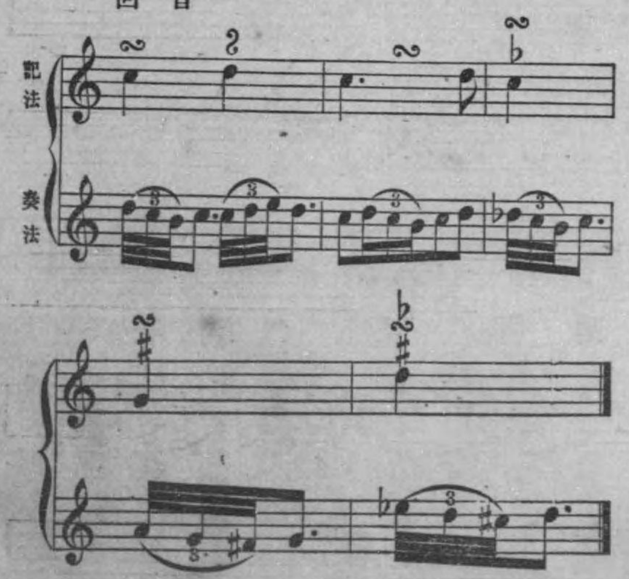
（第二十四圖）

倚音



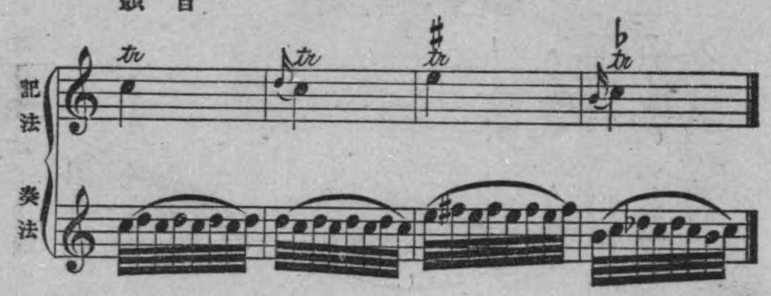
（第二十五圖）

回音



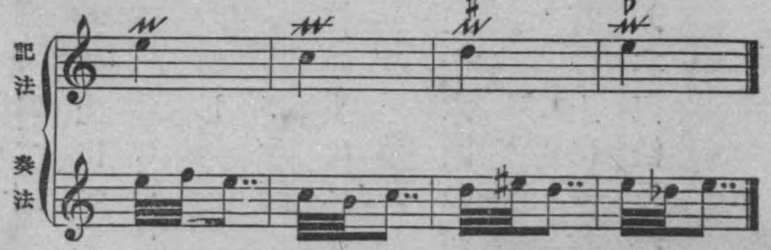
（第二十六圖）

顫音



（第二十七圖）

漣音



するに用ふる諸記號を裝飾記號と云ひ、其附せられたるものを裝飾音と云ふ。

普通用ふる裝飾音には倚音、回音、顫音、漣音、琶音の五種あり。

其一　倚音

音符の前に、小音符を附したるものを倚音と云ふ、其記法及奏法は第二十四圖の如し。

其二 回音

音符の上に∽記號を附したるものを**回音**と云ふ、其記法及奏法は第二十五圖の如し。

其三 顫音

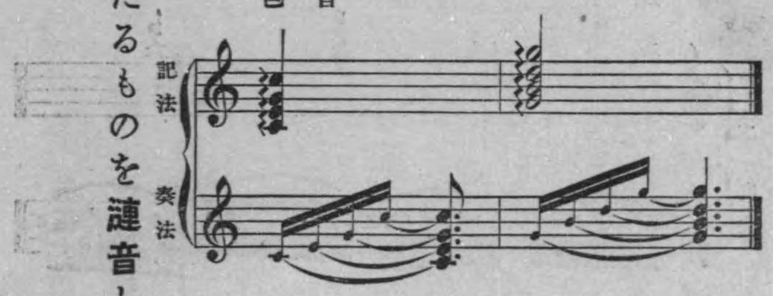
音符の上にtr.なる記號を附せられたるものを**顫音**と云ふ、其記法及奏法は第二十六圖の如し。

其四 漣音

音符の上に〰若くば〰〰記號を附せられたるものを**漣音**と云ふ、其記法及奏法は第二十七圖の如し。

（第二十八圖）

琶音



其五 琶音

音符の前に、波狀線を附せられたるものを**琶音**と云ふ、其記法及奏法は第二十八圖の如し。

第二編　音程論

第一章　音　程

音程

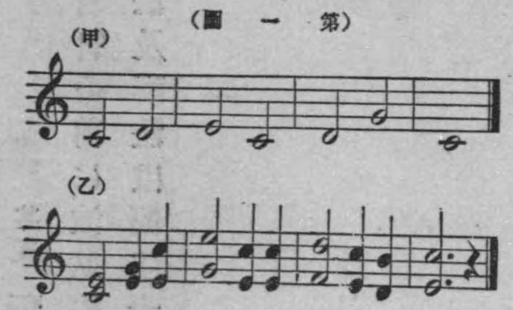
或音より他音に至る二音間の距離、若くば同時に奏唱せらるゝ二音間の距離を音程と云ふ。（第一圖甲乙）

全音階的半音

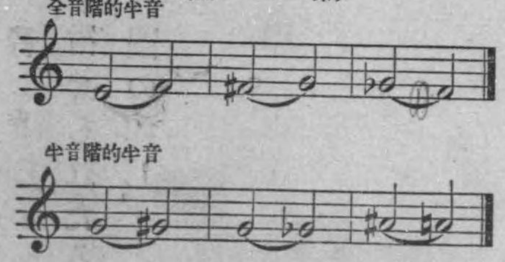
譜表上二度に亙る半音を全音階的半音と云ひ、若くば變記號等の變化記號に依りて生じたる同度の半音を半音階的半音と云ふ。（第二圖）

半音階的半音

（第一圖）



（第二圖）



音程は全音階的半音を含有するものと、半音階的半音を有するものとに依りて之を左の二種となす。

一　全音階的音程

二　半音階的音程

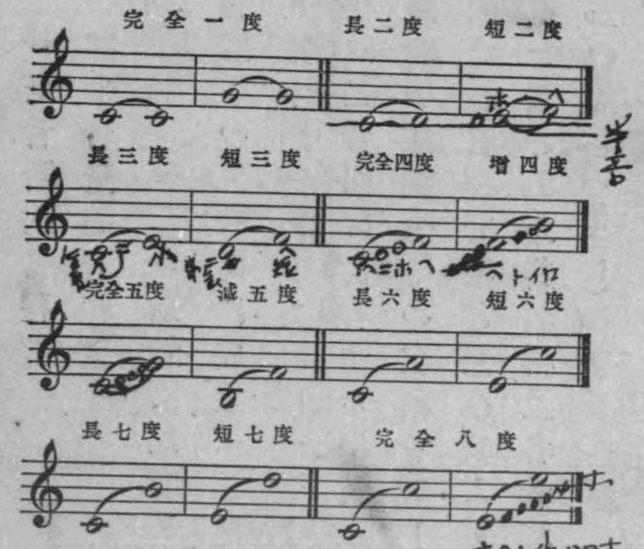
全音階的音程

第一節　全音階的音程

長音階中の二音間に成立する諸音程を全音階的音程と云ひ、其數十四個あり、されば一名十四音程とも云ふ。

音程は二音間に含有する半音及全音の多少に依り、其度數に長、短、增、減、完全等の名稱を冠して之を區別す。而して長より大なる音程を增と云ひ、長より小なる音程を短、短より小なるを減と云ふ。其名稱及各音程に含有する全音、半音の數は左の如し。（第三圖）

（圖三第）



第二節　半音階的音程

全音階的音程を、嬰又は變記號に依りて、半音程增減せられたる諸音程を半音階的音程と云ふ。

完全第一度（一度音程とも云ひ全く同音なるもの）

長第二度（二度に亘り二全音を含有するもの）

短第二度（二度に亘り一半音を含有するもの）

長第三度（三度に亘り二全音を含有するもの）

短第三度（三度に亘り一全音と一半音を含有するもの）

完全第四度（四度に亘り二全音と一半音を含有するもの）

增第四度（四度に亘り三全音を含有するもの）

完全第五度（五度に亘り三全音と一半音を含有するもの）

減第五度（五度に亘り二全音と二半音を含有するもの）

長第六度（六度に亘り四全音と一半音を含有するもの）

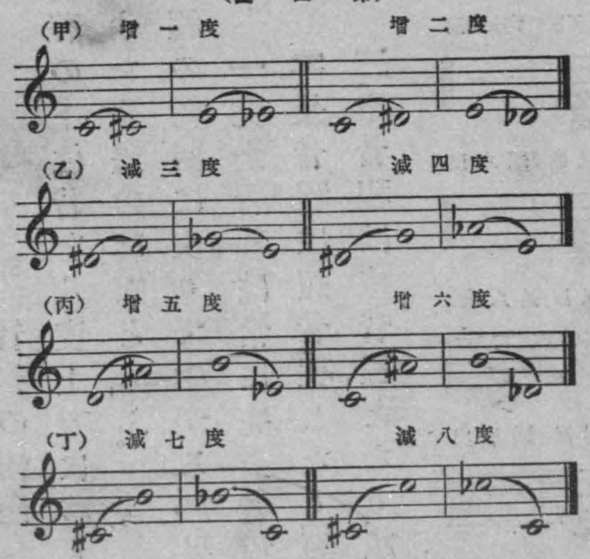
短第六度（六度に亘り三全音と二半音を含有するもの）

長第七度（七度に亘り五全音と一半音を含有するもの）

短第七度（七度に亘り四全音と二半音を含有するもの）

完全第八度（八度に亘り五全音と二半音を含有するもの）

（圖四第）



普通用ふる半音階的音程の名稱及び各音程に含有する全音、半音の數は左の如し。（第四圖）

增第一度（同度にして半音階的半音一個を含有するもの）

增第二度（二度に亘り、一全音と半音階的半音一個を含有するもの）

減第三度（三度に亘り、全音階的半音二個を含有するもの）

減第四度（四度に亘り、一全音と全音階的半音二個を含有するもの）

增第五度（五度に亘り、三全音と全音階的半音一個及半音階的半音一個を有するもの）

增第六度（六度に亘り、四全音と全音階的半音一個及半音階的半音一個を有するもの）

減第七度（七度に亘り、四全音と全音階的半音二個を有するもの）

減第八度（八度に亘り、四全音と全音階的半音三個を有するもの）

第三節　音程の轉回

音程の下位音を八度上方に移し、或は上位音を八度下方に移すを音程の轉回と云ふ。

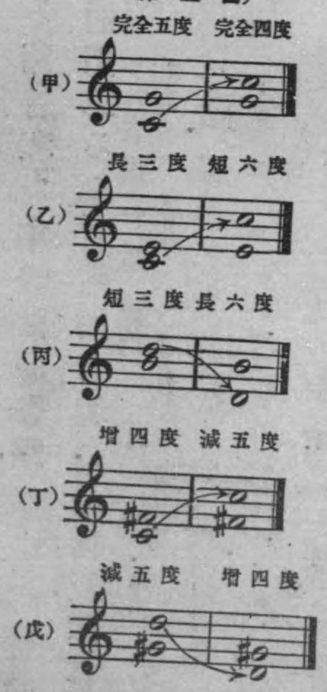
音程の轉回に依りて生ずる結果は左の如し。

一、完全音程は常に完全音程となる。（第五圖甲）

二、長音程は短音程となり、短音程は長音程となる。（第五圖乙丙）

三、增音程は減音程となり、減音程は增音程となる。（第五圖丁戊）

（第五圖）



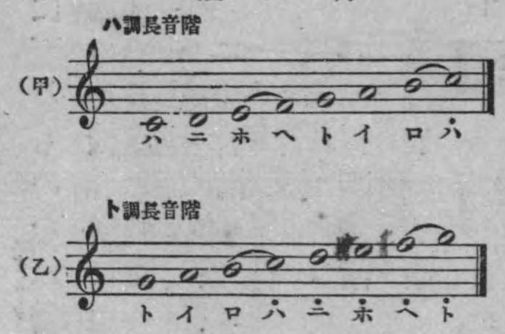
(甲)完全第五度の轉回は完全第四度音程
(乙)長第三度の轉回は短第六度音程
(丙)短第三度の轉回は長第六度音程
(丁)增第四度の轉回は減第五度音程
(戊)減第五度の轉回は增第四度音程

第三編　音階論

第一章　音階

或音を基礎とし、八音の一列が一定の法則に從ひて、配列せられたるものを音階と云ふ。（第六圖）

（第六圖）



音階の基礎としたる第一音は、其音階中最も主要なるものなれば、之を主調音と云ひ、各音階の名稱は此主調音の音名に依りて命名せらるゝものとす。例へば主調音ハ音なる時はハ調と云ひ、ト音なる時はト調と云ふが如し。而してハ音より・ハ音若くはト音より・ト

音に至るものを八音（オクターブ）と云ふ。（第六圖甲乙）

吾國の學校音樂に用ひらるゝ音階に左の五種あり。

一、長音階
二、短音階
三、半音階
四、雅樂調音階
五、俗樂調音階

第一節　長音階

音階の第三音と第四音との間、及び第七音と第八音間に半音程を有し、他は悉く全音程なる八音の一列を長音階と云ふ。

○音階の第一音より第三音に至る音程が長三度に起れるを以て長音階と稱す。

長音階は八調長音階を以て模範調とし（第七圖）其形式に一致せしめて他の音階を構成するものなれば、之れが爲めに嬰若くば變記號を要す。而して嬰記號の附せられたる音階を嬰種長音階と云ひ、變記號の附せられたるものを變種長音階と云ふ。（第八圖）

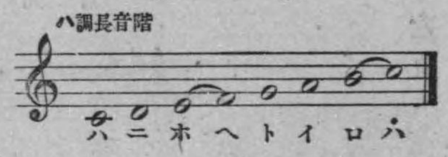
其一　嬰種長音階構成法

嬰種長音階を構成するには、模範調八調長音階を基礎とし、其主調音より上方完

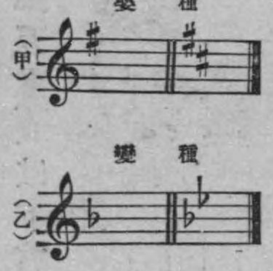
(1) 二六一
(2) 二九三
(3) 三二六
(4) 三九一
(5) 三四八
(6) 四三五
(7) 四八九
(8) 五二二
（振動數）

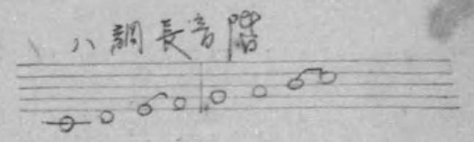
嬰種長音階構成法

（第七圖）



（第八圖）

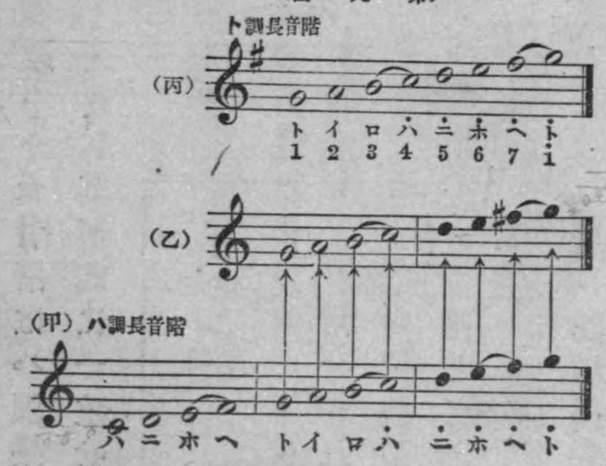




全第五度(或は下方完全第四度)に調を移して他の音階を構成するものとす。(第九圖甲乙)

ハ調長音階の主調音より上方完全第五度に當る**ト**音を新音階の主調音とし、順次上行的に**ト**音に至る八音を配列する時は、模範調**ハ**調長音階と其形式に於て一致せざるものあり、即ち新音階は第六音と第七音間に半音程を生じ、第七音と第八音間は全音程と成り、模範調と異なれり。故に第七音卽ち**へ**音に嬰記號を附して之を半音

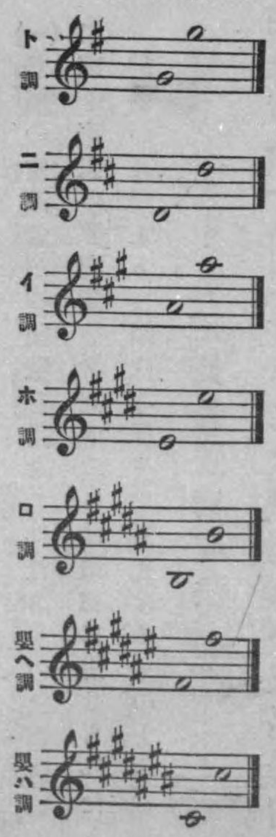
(第九圖)



程上昇せしめ、以て**ハ**調長音階の形式と其半音程及全音程の關係を全く同一ならしむ。斯くして完成したる新音階は其主調音**ト**なるを以て、之を**ト調長音階**と云ふ。而して**へ**音に附すべき嬰記號は、之を音部記號の直次に記して其調子記號(調號とも云ふ)となす。(第九圖丙)

前述の方法に依り、常に新音階の第七音に嬰記號を附加して**ト**調より**ニ**調、**ニ**調より**イ**調、**イ**調より**ホ**調と、順次新音階を構成するときは、七種の音階を得るものとす。

(第十圖)



其名稱、調子記號及主調音の位置は、第十圖の如し。(第十圖)

(一)音階の主調音が、嬰記號を附せられたるものは嬰何調と云ふ。

(二)調子記號の嬰記號を附記するには、最初に附せられたる嬰記號より、四度下か五度上りて順次七嬰まで附記するものとす。

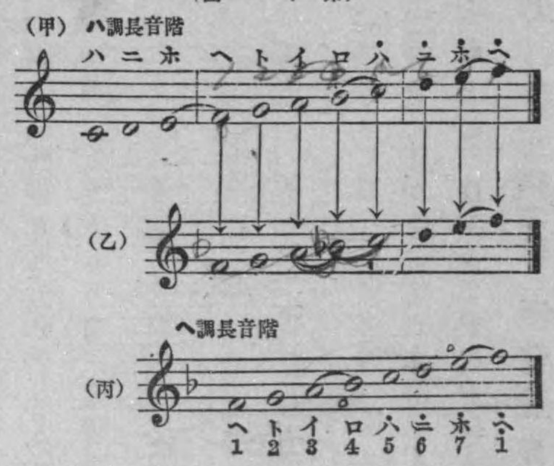
其二　變種長音階構成法

變種長音階を構成するには、模範調ハ調長音階を基礎とし、其主調音より上方完全第四度(或は下方完全第五度)に順次、調を移して構成するものとす。(第十一圖甲乙)

ハ調長音階の主調音より、下方完全第五度に當るヘ音を新音階の主調音とし、順次上行的にヘ音に至る八音を配列する時は、模範調なるハ調長音階と、其形式に於て一致せざるものあり、即ち新音階は第四音と第五音間に半音程を生じ、

第三音と第四音間は全音程となり、模範調と異なれり。故に第四音即ちロ音に變記號を附して半音程下降せしめ、以てハ調長音階の形式と其半音程及全音程の關係を全く同一ならしむ。斯くして完成したる新音階は、其主調音ヘなるを以て、之をヘ調長音階と云ふ。而してロ音に附すべき變記號は、之を音部記號の直次に記して、其調子記號となす。(第十一圖丙)

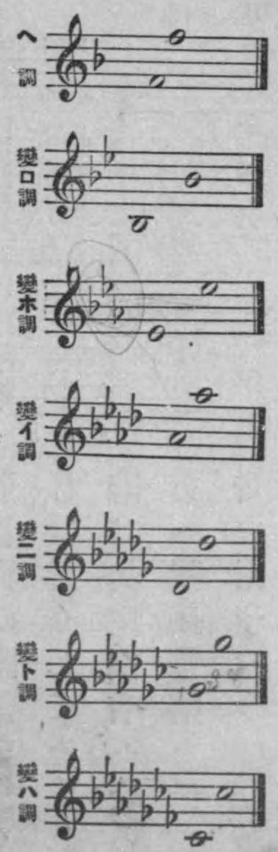
(第十一圖)



前述の方法に依り常に新音階の第四音に變記號を附加し

てヘ調より變ロ調、變ロ調より變ホ調、變ホ調より變イ調と順次、新音階を構成する時は、七種の音階を得るものとす。其名稱、調子記號及主調音の位置は左の如し。（第十二圖）

（第十二圖）



(一) 音階の主調音に、變記號の附せられたるものを變何調と云ふ。

(二) 調子記號の變記號を附記するには、最初に附せられたる變記號より四度上か五度下りて順次、七變まで附記するものとす。

第二節　短音階

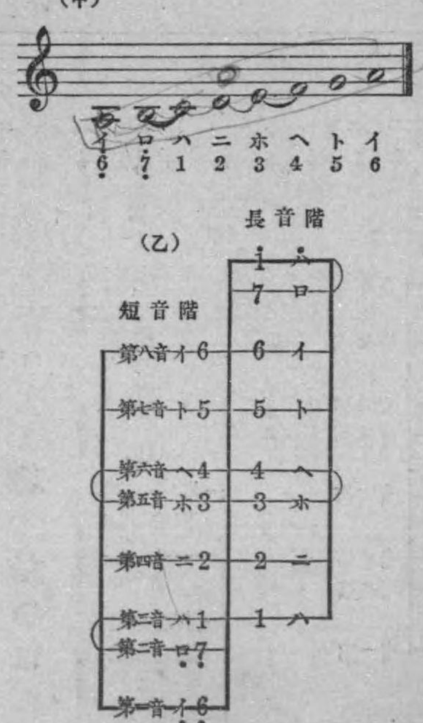
短音階を分ちて基本短音階、和聲的短音階、旋律的短音階の

三種となす。

其一　基本短音階

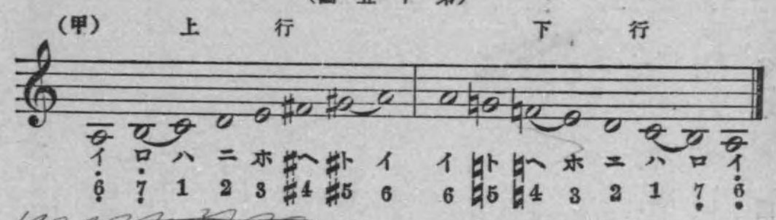
音階の第二音と第三音との間、及び第五音と第六音間に半音程を有し、他は悉く全音程なる八音の一列を基本短音階と云ふ。（第十三圖甲）

（第十三圖）

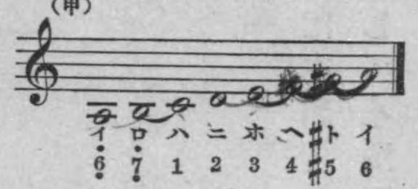


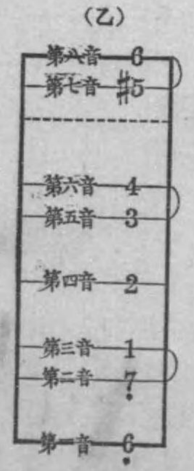
短音階は、長音階の第六音若くば主調音より短第三度下より始まれるものと知るべし。而して**イ調短音階**を以て模範調となす。（第十

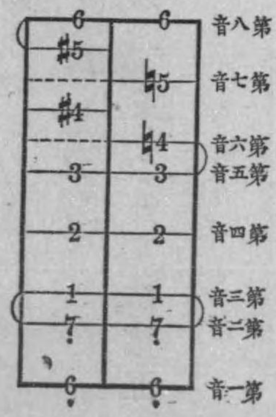
（第十五圖）



（第十四圖）







（第十三圖甲乙）

其二 和聲的短音階

基本短音階の第七音に嬰記號を附して半音程上昇せしめたるものを和聲的短音階と云ふ。（第十四圖甲乙）

和聲的短音階は和聲を構成する

に必要なるものなり。

其三 旋律的短音階

基本短音階を上行の際第六音と第七音とに臨時嬰記號を附して各々半音程上昇せしめ、下行の際第七音と第六音とに本位記號を附して原位に復せしめたるものを旋律的短音階と云ふ。（第十五圖甲乙）

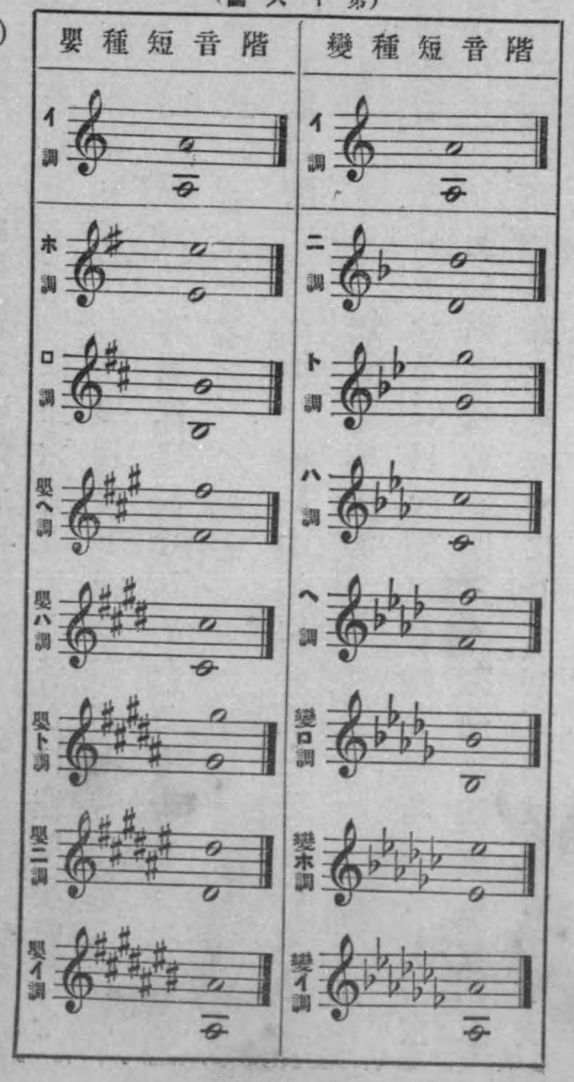
旋律的短音階は、主旋律を構成するに必要なるものなり。

其四 短音階構成法

各種短音階を構成するには、イ調短音階を模範調とし、其主調音より上方完全第五度若くば下方完全第四度に移調して、順次新音階を構成するものにして、其方法は長音階構成法と全く同一なりとす。其調子記號及び主調音の位置は第

十六圖の如し。

(第十六圖)



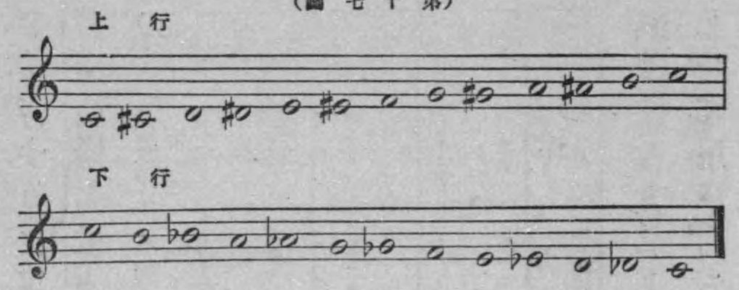
(一)和聲的短音階及旋律的短音階の第六音若くば第七音に附記する嬰記號は臨時記號として用ひたるものなれば、調號には加入せざるものとす。

(二)短音階は長音階と其調號を等しくし、最も密接なる關係を有するを以て、之を關係短音階とも云ふ。

第三節　半音階

半音階とは、半音程のみにて成立せる音階にして、嬰若くば變記號を以て、本位音の間に變化音を加へ、十三音内に含有せる十二個の半音程より成立せるものなり。而して半音程は通例、嬰記號を以て上行し、變記號にて下行するものとす。(第十七圖)半音程は之を單獨に用ひらるゝ事なく、長短音階にて成れる樂曲中に混用し、樂

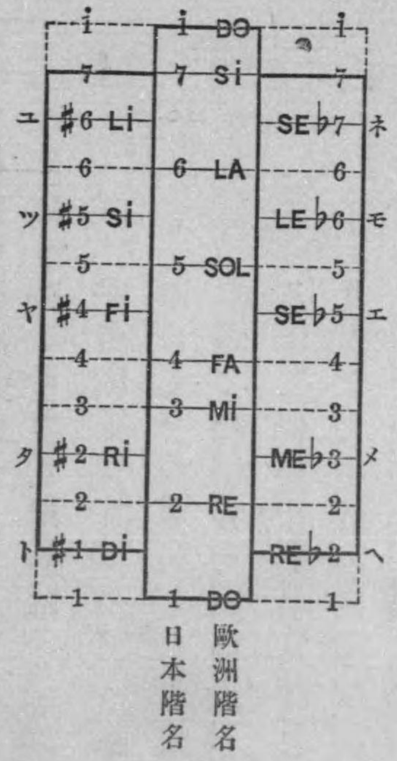
(第十七圖)



す。

曲を裝飾するに用ひらるゝものなれば**主調音**を有せず。半音階の階名は、上行と下行とに依りて其名稱を異にせり、左の如し。（第十八圖）

（第十八圖）



第四節　雅樂調音階

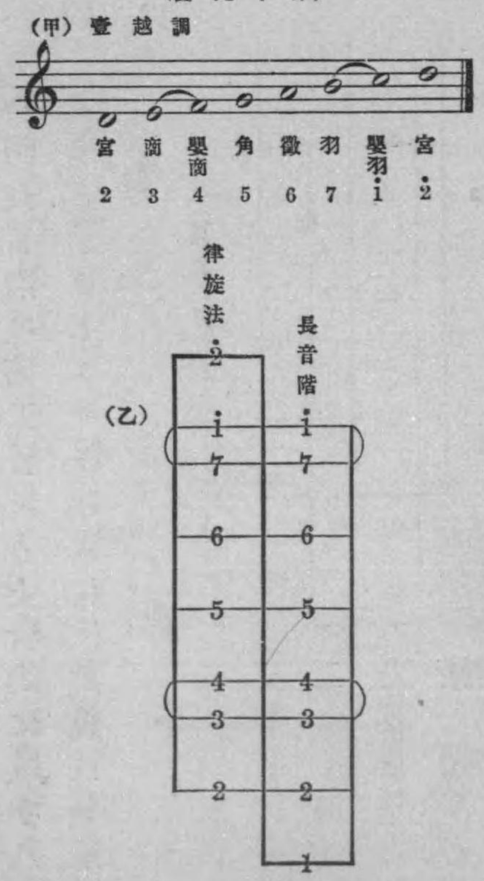
雅樂は往古、支那より傳來し、現今吾國の朝儀を始め、學校唱歌として用ひらるゝ音樂にして、其音階に律旋法、呂旋法の

二種あり。

其一　律旋法

雅樂には**宮**（キユウ）、**商**（シヤウ）、**角**（カク）、**徵**（チ）、**羽**（ウ）と稱する五聲音あり、此五聲音に**嬰商**、**嬰羽**の二音を加へたるものを**律旋法**と云ふ。

（第十九圖）

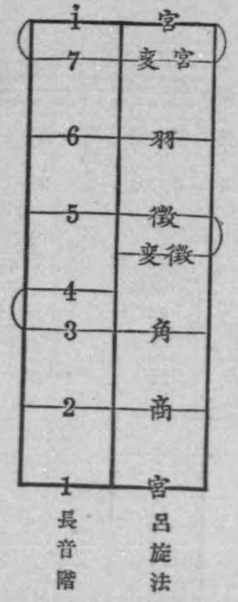


律旋法には壹（イチ）越（コツ）音より始まる壹越調律旋法と稱するも

のあり。**ハ**調長音階の第二音より上行的に、順次八音の一列と同一なりとす。而して學校唱歌には此旋法を用ふること多し。（第十九圖）

其二　呂旋法

（第二十圖）



五聲音に變徵、變宮の二音を加へたるものを**呂旋法**と云ひ、長音階と殆んど相等しきこと第二十圖の如し。

第五節　俗樂調音階

古來より吾國の民間に行はるゝ音樂を**俗樂**と云ふ。俗樂の音階には陰旋法、陽旋法の二種あり、學校唱歌の一部

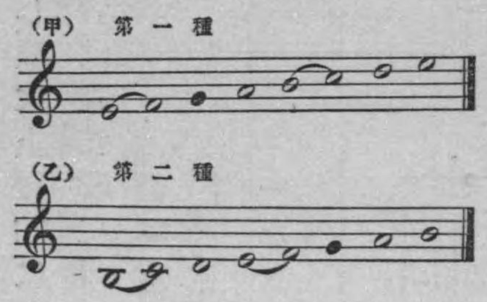
として用ひらるゝものは多く陰旋法なりとす。

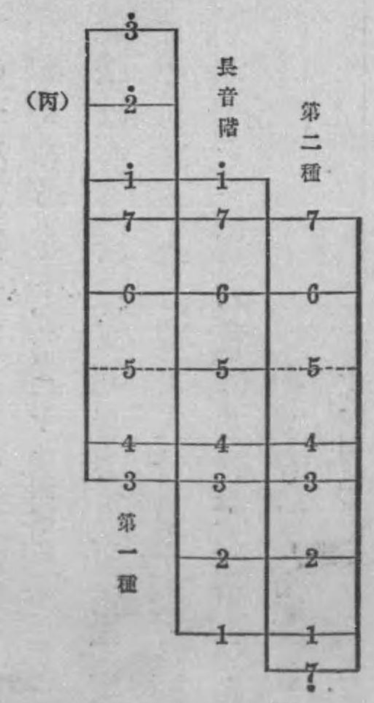
其一　陰旋法

陰旋法は之を第一種陰旋法、第二種陰旋法の二種となす。

第一種陰旋法は、長音階の主調音より短第三度上を主調音

（第二十一圖）



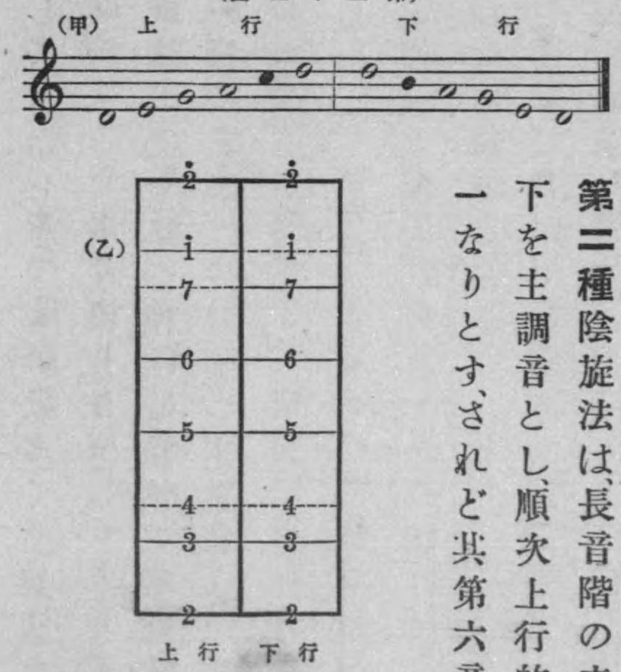


とし、順次上行的に八音の一列と同一なりとす、されど其第三音は甚だ稀に用ひらるゝものとす。(第二十一圖甲)

第二種陰旋法は、長音階の主調音より短第一度下を主調音とし、順次上行的に八音の一列と同一なりとす、されど其第六音は甚だ稀に用ひらるゝものとす。(第二十一圖乙)

陰旋法は主として箏、三味線等の樂曲に用ひらるゝこと多し。

(第二十二圖)



其二　陽旋法

陽旋法は之を田舍節とも稱し、五聲音より構成せられ、其第五音は上行、下行を異にし、殆んど雅樂の律旋法と同一なりとす。(第二十二圖)

陽旋法は謠曲、俚謠等の樂曲に用ひらるゝこと多し。

第六節　各旋法の性質及識別法

長音階にて成れる樂曲を**長旋法**と云ひ、短音階にて成れる樂曲を**短旋法**と云ふ。

現今、學校唱歌に用ひらるゝ旋法の主なるものを**長旋法**、**短旋法**、**律旋法**、**陰旋法**の四種となす。而して各旋法より成れる樂曲の性質及識別法の大略を擧ぐれば左の如し。

樂曲の旋法	性質	別法	其例曲
長旋法	概ね勇壯、快活高潔	其調子の第一音、三音又は五音に始まり、主調音に終るを通例とすれども稀には第三音又は五音に終るものあり。	一月一日（祝祭日唱歌） 天長節（同上） 出征兵士（尋常科用）
短旋法	概ね悲哀、悲壯閑雅	其調子の第三音又は六音に始まり、第六音に終るを通例とすれども稀には第三音に終るものあり。	菅公（尋常科用） 鎌倉（同上） 秋の夕暮（小學唱歌集）
律旋法（壹越）	概ね優美、高雅長閑	其調子の第二音又は三音六音に始まり第二音に終るを通例とす。	君か代（祝祭日唱歌） 地久節（伊澤氏小學唱歌）
陰旋法	概ね悲哀、優婉陰氣	其調子の第一音、三音又は七音に始まり、第三音又は七音に終るを通例とす。	鏡（伊澤氏小學唱歌） 數へ歌（同上）

第二章　移調

移調とは、或調子にて成れる樂曲を、他の高き調子若くば低き調子に移して、演奏又は記譜するを云ふ、例へば**ヘ**調の樂曲を其れより高き**ト**調若くば**ヘ**調より低き**ホ**調にて記譜或は演奏するが如し。（第二十三圖）

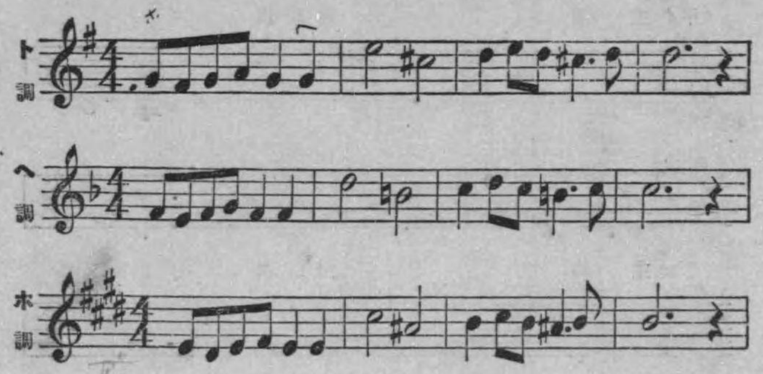
移調を行ふには、臨時記號の嬰、變及本位記號には特に注意せざる可からず。

第三章　轉調

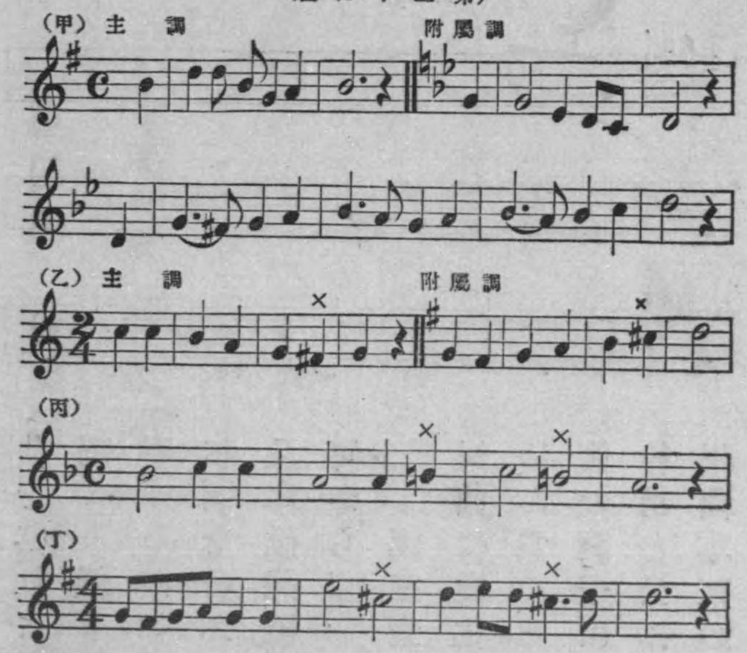
樂曲に變化を與へ、趣味深からしめん爲め、樂曲本來の調子を一時他の調子に轉ずることあり、之を轉調と云ふ。

樂曲本來の調子を主調と云ひ、一

（第二十三圖）



（第二十四圖）



時他の調子に轉じたるものを**附屬調**と云ふ。而して一時轉調したるものは、再び本來の調子に復歸して終結するを本體とす。

轉調には、調號を變更して轉調するものと、調號を變更せずして轉調するものゝ二種あり。（第二十四圖）

第四編　和聲論

第一章　和聲學

高低を異にせる二個以上の聲音が、或法則に從ひ、相重なりて進行するものを和聲と云ふ。而して和聲に關する諸種の法則を研究する學科を**和聲學**といふ。

第一節　人聲の區域

和聲學を講究するには、豫め和聲學上に必要なる**人聲の區域**を知らざる可からず。

人聲の區域は、男女及年齡、各人發育の程度等に依りて、一定せずと云へども、其限界内は僅に**二十三音度**の範圍内にありとす。

人聲の區域は、男女に從ひ左の四部に分つ、之を**人聲の四部**と云ひ、其區域は何れも**十二音度**を有するものとす。

人聲の四部
- 男聲
  - 低音(Bass.)
  - 次中音(Tenor.)
- 女聲
  - 中音(Alto.)
  - 高音(Soprano.)

變聲期前の男女聲は同一の高度にありと雖ども、男子十三四歳にして變聲したるものは**八音度**低下するものなり。

協和音程
不協和音程

第二節　協和音程及不協和音程

或音程の二音を同時に奏唱する時、能く一致調和する諸音程を**協和音程**と云ひ、之に反して、其音程の二音が不調和なる諸音程を**不協和音程**と云ふ。

協和音程中、最も能く一致調和する諸音程を**完全協和音程**と云ひ、稍々不完全にして之に次げる諸音程を**不完全協和音程**と云ふ。

一　協和音程に屬する諸音程は左の如し。

完全協和音程	完全一度	完全四度
	完全五度	完全八度
不完全協和音程	長三度	短三度
	長六度	短六度

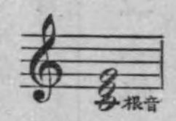
二　不協和音程に屬する諸音程左の如し。

不協和音程	長二度	短二度
	減五度	長七度
	増四度	短七度
	半音階的諸音程	

第二章　三和音

高低を異にせる三個の聲音を、同時に相響かしむるものを**三和音**（又は和絃）と云ひ、和聲の基礎となるものなり。

（第一圖）



三和音は或音を基礎とし、上方に順次第三音、第五音の三個に依りて構成するものとす。而して基礎としたる第一音を**根音**と云ふ。（第一圖）

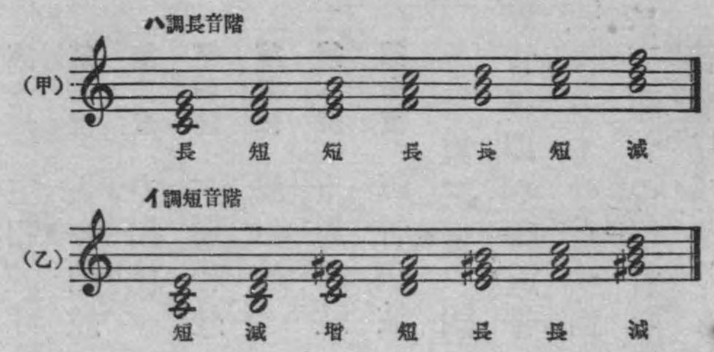
第一節　三和音の種類

三和音には長、短、増、減の四種あり。左に**ハ**調長音階及**イ**調短音階の各音を根音として、三和音を構成すれば第二圖の如し。

一、長三和音とは、根音と長三度、完全五度より成るものを云ふ。

七音の名稱

（第二圖）



二、短三和音とは、根音と短三度、完全五度より成るものを云ふ。

三、増三和音とは、根音と長三度、増五度より成るものを云ふ。

四、減三和音とは、根音と、短三度、減五度より成るものを云ふ。

○長短兩三和音は最も多く用ひらるゝものなれば之を普通和絃と云ふ。

第二節　七音の名稱

三和音を構成すべき長短音階の各度には、其和絃の性質に從ひ種々の名稱あり、左の如し。

第一度　主和絃
第二度　上主和絃
第三度　中和絃
第四度　次屬和絃
第五度　屬和絃
第六度　上屬和絃
第七度　導音和絃

第三章　四聲音部

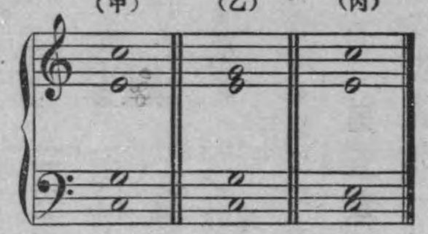
四聲音部即ち四重音を構成するには、三和音中の或一音を重複するものとす。而して左の法則に從ふを要す。

一、三和音の根音を以て重複するものは最良にして、第五音を以てするものは之に次ぎ、第三音を以て重複するものは甚だ少し。（第三圖甲乙丙）

二、短三和音の第三音は重複し得れども、長三和音の第三音は重複せざるを通例とす。

○普通和絃の第五音は削除することあれども、根音及第三音は削除することを得ざるものとす。

（第三圖）



四聲音部の最高音部を高音（ソプラノ）と云ひ、次を中音（アルト）次中音（テノール）低音（バース）と云ふ。而して人聲にありては、高音部と中音部は女聲に屬し、次中音部と低音部は男聲に屬するものとす。

第四章　轉回和絃

三和音の根音が、其低部に置かれずして、他に移されたる和

絃を轉回和絃と云ふ。

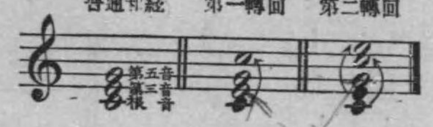
轉回和絃には左の二種あり。

一三和音の第三音が最低部に置かれたる場合は、之を第一轉回和絃又は**6**（或は**6 3**）の和絃と云ふ。（第四圖）

二三和音の第五音が最低部に置かれたる場合は、之を第二轉回和絃又は**6 4**の和絃と云ふ。（第四圖）

○**6**の和絃とは、低音上の二聲音が、低音より數へて三度及六度に當り、**6 4**の和絃は、低音上の二聲音が、四度及六度に當るを以て此名あり。

（第四圖）



第五章　和音の進行法

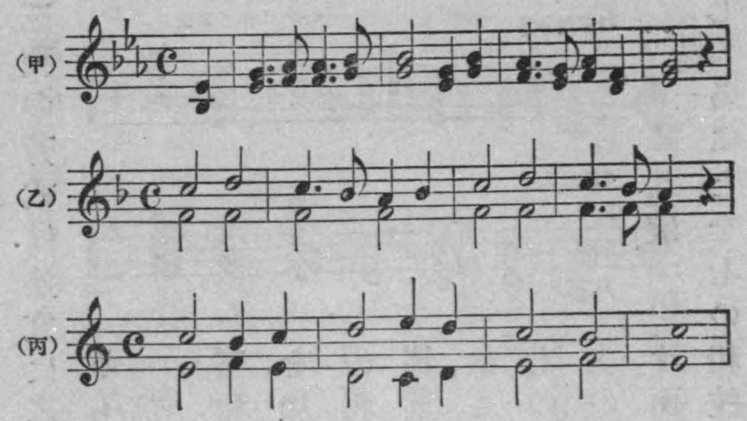
各種の和音が、一定の方式に從ひて進行するを和音の進行と云ひ、其方式に並行進行、反行進行、斜行進行の三種あり。

一、並行進行とは、各聲音が同一方向に並行して進行するを云ふ。（第五圖甲）

二、反行進行とは、各聲音が互に相反する方向に進行するを云ふ。（第五圖乙）

三、斜行進行とは、一の聲音は同度に止まり、他の聲音が上行或は下行するものを云ふ。（第五圖丙）

（第五圖）



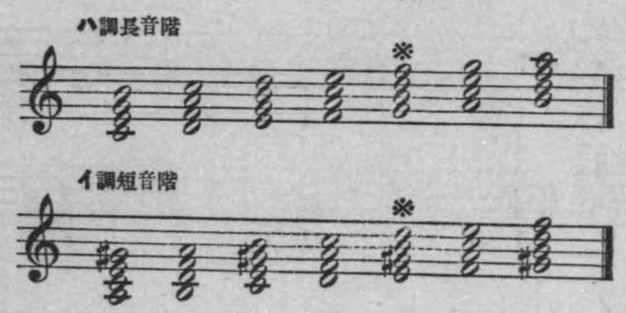
右三種の方式は、適宜に之を混用して、一樂曲を進行せしむるものとす。

第六章　七の和絃

三和音の上に更に其第七音（根音より）を加へたるものを**七の和絃**又は**七度の和絃**と云ふ。（第六圖）　而して音階の第五音上に構成せらるゝ七の和絃は、最も主要なるものとす。

七の和絃は不協和音に屬するを以て、次の和絃には協和音を續出するを要す。而して不協和音より協和音に進行せしむることを、七の和絃の**解決**と云ふ。（第七圖）

（第六圖）

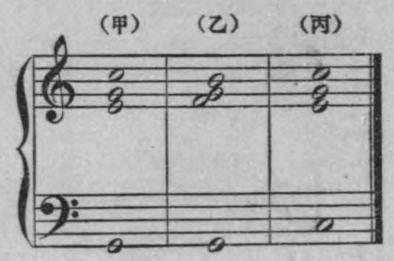


七の和絃は四個の聲音にて成立せるに依り、四聲音の和聲にありては重複を要せずして之を用ひ得るが如しと雖ども、他の和絃と連合の關係上、或一音を削除して他の音を重複することあり、通例第五音を削除して根音を重複するものにして、第七音及根音は決して削除せざるものとす。（第八圖）

第七章　靜止法

樂曲進行の終結を表はす方法を**靜止法**と云ひ、普通用ふるものに完全靜止法、不完全靜止法、變格靜止法の三種あり。

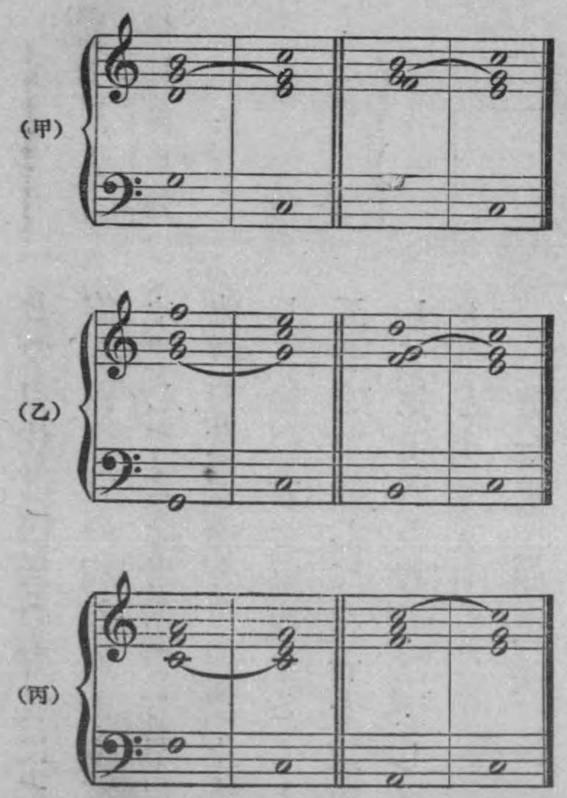
（第七圖）



（第八圖）

一、完全靜止法は通例、第七音を有する屬和絃より主和絃に進行して解決するものとす。而して高音及低音は、何れも主調音なるを要す。（第九圖甲）

（第九圖）



二、不完全靜止法は、屬和絃或は七の屬和絃より主和絃に進行して解決するものとす。而して其高音は主調音以外の三音若くば五音を有するものとす。（第九圖乙）

三、變格靜止法は、次屬和絃より主和絃に進行して終止するものにして、低音に根音を有するものとす。（第九圖丙）

新編 **樂典教科書** 終

練習課題〔附錄〕

第一編　樂譜論

第一章　譜表

1. 譜表の成立及位置を問ふ。
2. 加線及加間とは如何。

第二章　音名

1. 吾國の音名は如何。
2. 階名を問ふ。
3. 音名と階名との差違如何。

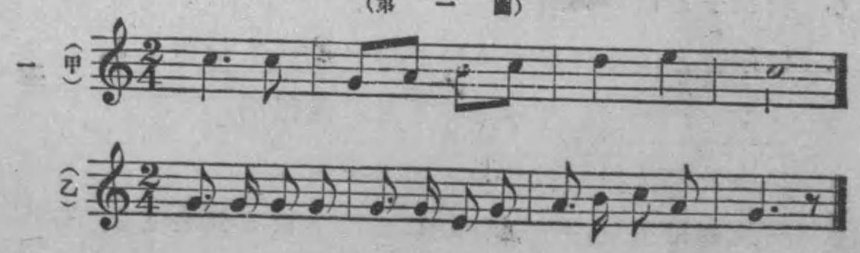
第三章　音部記號

1. 音部記號二種を擧げよ。
2. 譜表上に於ける高音部記號及低音部記號の位置を問ふ。
3. 大譜表上に音名を配記せよ。

第四章　音符

1. 左の音符の名稱を問ふ(第一圖)

(第一圖)



2. 附點音符及複附點音符は普通音符本來の時間に何

新編

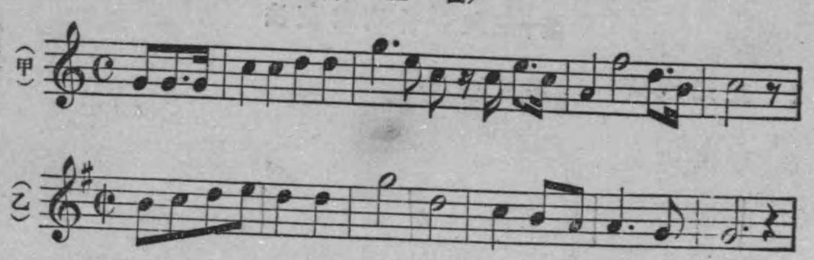
樂典教科書

附錄

3. ト調、ニ調、ヘ調、變ロ調の調子記號を記せ。

4. 左の曲節を階名にて讀譜せよ。（第三圖）

（第　三　圖）



第九章　速度標語

1. 左記速度標語の讀方及意義を問ふ。

Lento.　Largo.　Andante.　Moderate.　Allegro.

Rit.　Accel.　Molto.

2. 拍節機とは如何なるものか。

第十章　發想記號

1. 左記强弱記號の讀方及意義を問ふ

p.　pp.　f.　mf.　Cresc.　Dim.

2. 左記曲想に關する記號の讀方及意義を問ふ

Dolce.　Legato.

第十一章　雜記號

1. 連結記號とは如何なるものか。

2. スタカトーに就き例を擧げて說明せよ。

3. 延長記號の形狀及作用を問ふ。

第十二章　省略記號

程を加ふべきか。

（第五章　休止符）

1. 普通休止符に六種あり、其名稱及形狀默止時間の割合を問ふ。

第六章　縱　線

1. 單縱線とは如何。

2. 小節とは如何。

3. 變格小節及正格小節の樂曲を問ふ。

4. 複縱線に二種あり其名稱及用法を問ふ。

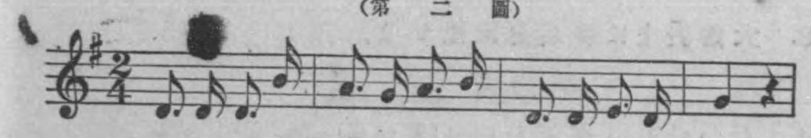
第七章　拍　子

1. 拍子とは如何なるものか。

2. 拍子の種類を擧げて强弱聲の位置を示せ。

3. 左の樂曲に於ける拍子の呼節法を數字にて示せ。

（第　二　圖）



4. 變拍子とは如何。

5. 切分音とは如何なるものか、例を擧げて說明せよ。

第八章　嬰、變及本位記號

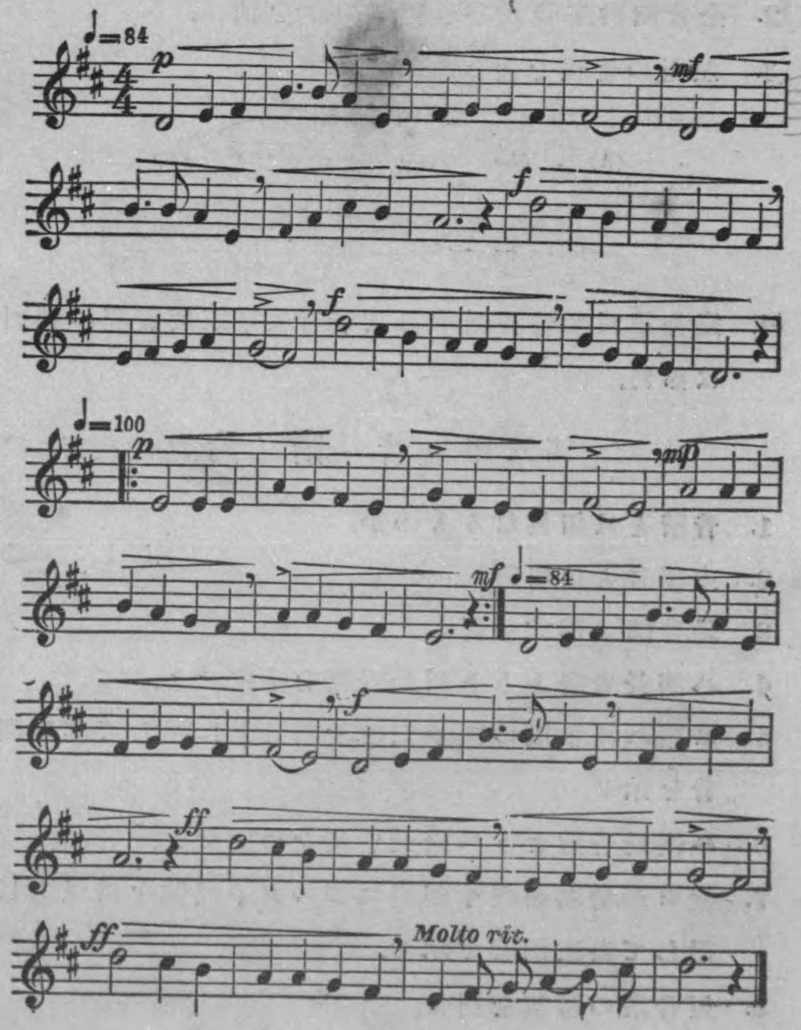
1 嬰、變及本位記號の作用と効力を問ふ。

2. 嬰及變記號を臨時記號として用ひたる場合と、調子記號としての場合は如何。

◎勅語奉答の樂譜に就き諸記號の名稱を問ふ。（第六圖）

勅語奉答

（第六圖）

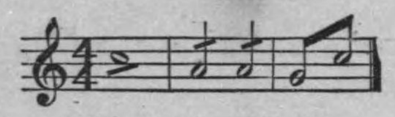


1. 省略記號の種類を擧げよ。
2. 省略記號使用の場合を問ふ。

第十三章　音符略記法

1. 左記樂譜の奏法を記せ。（第四圖）

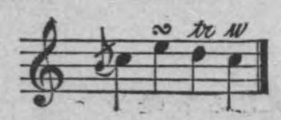
（第四圖）



第十四章　裝飾記號

1. 左記倚音、回音、顫音、連音の奏法を記せ（第五圖）

（第五圖）



2. 琶音とは如何なるものか。

9. 基本短音階の形式を問ふ。

10. イ調和聲的短音階及イ調旋律的短音階を譜表上に記せ。

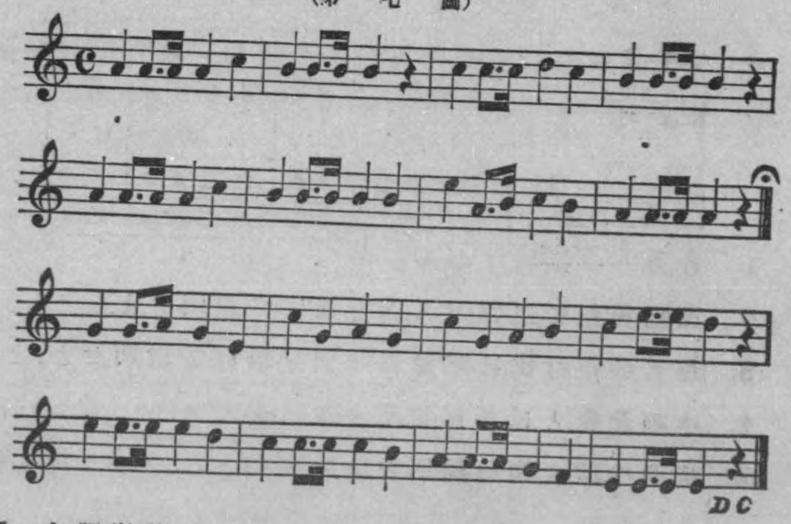
11. 雅樂調壹越律旋法とは如何。

12. 俗樂調音階の陰旋法とは如何。

13. 長旋法、短旋法、律旋法、陰旋法より成れる樂曲の識別法を問ふ。

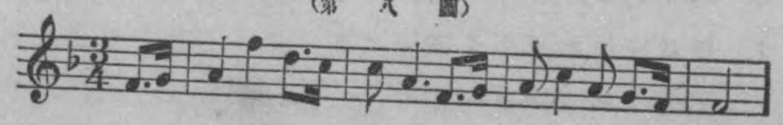
14. 左の樂曲の旋法を問ふ。(第七圖)

(第七圖)



七 15. 左記樂譜をホ調に移調せよ。(第八圖)

(第八圖)



16. 轉調とは如何なるものか。

第二編　音程論

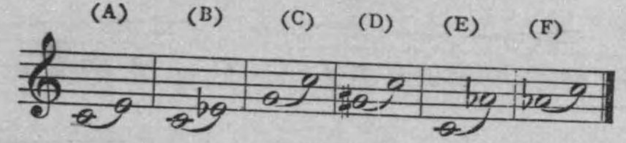
音程

1. 音程とは如何なるものか。

2. 全音階的半音及半音階的半音を問ふ。

3. 左記の音程を問ふ。(第六圖)

(第六圖)



4. 完全第四度音程、長第五度音程、短第三度音程の轉回は如何。

第三編　音階論

1. 音階とは如何なるものか。

2. 主調音とは如何。

3. 長音階の形式を問ふ。

4. ハ調長音階よりト調長音階を構成せよ。

5. ニ調、ハ調、ホ調の調子記號を譜表上に記して其主調音を示せ。

6. ハ調長音階よりヘ調長音階を構成せよ。

7. 變ロ調、變ホ調、變イ調、變ニ調の調子記號を譜表上に記して其主調音を示せ。

8. 短音階の種類を問ふ。

音樂術語集

總論

音樂術語集〔附錄〕

トーン Tone	音
ミユージガル トーン Musical tone	音樂音
ノーイズ Noise	噪音
ミユージック Music	音樂
ミユージカル グランマー Musical grammar	樂典

第一編　樂譜論

第一章

スタツフ Staff	譜表
レジアー ライン Leger line	加線

第二章

ネーム オヴ ノート Name of note	音名
ネーム オヴ スケール Name of scale	階名

第三章

クレツフ Clef	音部記號
トレブル クレツフ Treble clef	高音部記號
ベース クレツフ Bass clef	低音部記號
グランド スタツフ Grand staff	大譜表

第四章

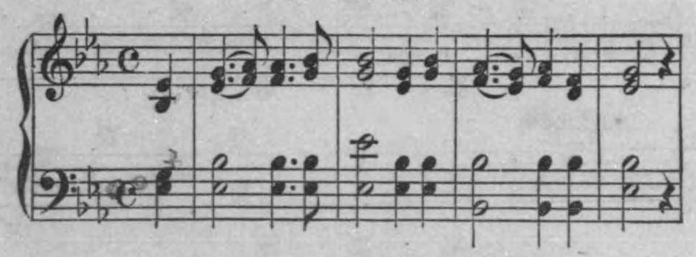
ノート Note	音符

第四編　和聲論

練習課題〔附錄〕

1. 和聲樂とは如何。
2. 人聲四部の名稱を問ふ。
3. 完全協和音程、不完全協和音程、不協和音程各三種を擧げよ。
4. 三和音及根音とは如何。
5. 七音の名稱を問ふ。
6. 左の樂曲を四聲音部に分て。(第九圖)

(第九圖)



7. 轉回和絃に二種あり、例を擧げて說明せよ。
8. 和音の進行法に三種あり、例を擧げて說明せよ。
9. 七の和絃とは如何。
10. 樂曲の靜止法を說明せよ。

(終り)

Dotted note	附點音符

第五章

Rest	休止符
Bar	單縱線
Double bar	複縱線

第六章

Time	拍子
Accent	强聲
Un accent	弱聲
Duple time	二拍子
Quadruple time or Cmmon time	四拍子
Triple time	三拍子
Cmpound triple time	六拍子
Beating time	拍節法
Counting time	呼節法
Triplet	三連音符
Syncopation	切分音

第七章

Sharp	嬰
Flat	變
Natural	本位記號
Piano-forte	ピアノ
Organ	オルガン

Violin	ヴァイオリン
Key signature	調子記號
Accidental	臨時記號
Double sharp	重嬰
Double flat	重變

第八章

Term denoting pace	速度標語
Metronome	拍節機

第九章

Term of expression	發想記號

第十章

Slur	連結
Staccato	スタカトー
Pouse	延長記號

第十一章

Abbreviation	省略記號

第十二章

Embellishment	裝飾音
Appoggiatura	倚音
Turn	回音
Trillo	顫音
Pralltriller mordent	漣音
Arpeggio	琶音

モヂユレーション Modulation	轉調

第四編 和聲論

第一章

ハーモニー Harmony	和聲
コンソナント Consonant	協和音
ディソナント Dissonant	不協和音
ボーイス Voice	人聲
コールド Chord	和絃

第二章

ツライアド Triad	三和音
ルート Root	根音
トニツク Tonic	主和絃
シユーパートニツク Supertonic	上主和絃
メデイアント Mediant	中和絃
サブドミナント Subdominant	次屬和絃
ドミナント Dominant	屬和絃
シユーパー ドミナント Super dominant	上屬和絃
リーデイング トーン Leading tone	導音和絃
コンモン コールド Common chord	普通和絃

第三章

フオーア ヴオイセス パーツ Four voices Parts	四聲音部
ツレブル パーツ ソプラノス パート Treble Parts (Sopranos Part)	高音部
アルト パート Alto Part	中音部

第二編 音程論

第一章

インターヴアル Interval	音程
ダイアトニツク セミトーン Diatonic semitone	全音階的半音
オルタード セミトーン オア クロマテイツク セミトーン Altered semitone or Chromatic semitone	半音階的半音
オルタード インターヴアル Altered interval	半音階的音程
インヴアーション Invertion	轉回

第三編 音階論

第一章

スケール Scale	音階
トニツク Tonic	主調音
メージヨアスケール Mazor scale	長音階
マイノル スケール Minor scale	短音階
ダイアトニツク Diatonic	基本短音階
ハーモニツク Harmonic	和聲的
メロデイツク Melodic	旋律的
コンストラクシヨン オブ マイノル スケール Construction of minor scale	短音階構成法
リラテイブ マイノル スケール Relative minor scale	關係短音階
モード Mode	旋法

第二章

トランスポジシヨン Transposition	移調

第三章

テノル パート Tenor Part	次部	
ベース パート Bass Part	低音部	
	中音部	
	第四章	
インヴァーション コールド Imrertion Chord	轉回和絃	
	第五章	
パラルレル モーション Parallel motion	並行進行	
コントラリー モーション Contray motion	反行進行	
オブリツク モーション Oblique motion	斜行進行	
	第六章	
レゾルユーション Resolution	解決	
	第七章	
カデンス Cadence	靜止法	

（終り）

大正四年一月二日印刷
大正四年一月四日發行

新編樂典教科書
定價金參拾五錢

著者　天谷秀

發行者　大阪市東區南久太郎町三丁目十五番地　鈴木常松

發行兼印刷者　東京市神田區今川小路一丁目五番地　鈴木常次郎

發行所
東京市神田區今川小路一丁目
振替口座（東京）二六四四番　修文館
大阪市東區南久太郎町三丁目
振替口座（大阪）四七一番　修文館

見本獻本
不許複製
御高覽

Z2556
の

320
166

終